

社会福祉法人 千葉育美会

令和4年度 事業報告



特別養護老人ホーム 花の里



特別養護老人ホーム浮間こひつじ園



特別養護老人ホーム 波岡の家

特別養護老人ホーム波岡の家

短期入所生活介護

通所介護

居宅介護支援

地域包括支援センター

特別養護老人ホーム花の里

短期入所生活介護

通所介護

居宅介護支援センター

在宅介護支援センター

特別養護老人ホーム浮間こひつじ園

短期入所生活介護

目次

1. 法人概要	・・・	1- 3
2. 波岡の家	令和4年度 事業報告書(案) ・・・	4-54
3. 花の里	令和4年度 事業報告書(案) ・・・	55-81
4. 浮間こひつじ園	令和4年度 事業報告書(案) ・・・	82-99

1.法人概要

- (1)法人名称 社会福祉法人千葉育美会
(2)法人所在地 〒292-0826 千葉県木更津市畑沢南3丁目16番76号
(3)設立年月日 昭和62年7月29日
(4)理事長 林 隆春
(5)役員 理事 林 功浩, 上本 忠雄, 鳥井 一平, 木田 健一, 佐々木英幸
監事 小幡 伸吾, 吉田 浩之
評議員 白石 公一, 近田 秀樹, 鎌田 達夫, 原田 裕子, 鬼塚 義浩,
宮坂 和子, 田井 ヒロキ リカルド

(6)事業内容

特別養護老人ホーム 波岡の家

所在地 千葉県木更津市畑沢南3丁目16番76号

電話 0438-36-4193 FAX 0438-36-1594

敷地面積 6,256.30 m²

延床面積 4,355.31 m²

嘱託医 在宅診療おうちクリニック

訪問歯科 大隅歯科医院 中村歯科医院

事業内容

①特別養護老人ホーム波岡の家

指定年月日 令和2年2月1日

定員 50名

②特別養護老人ホーム波岡の家指定短期入所生活介護事業所

指定年月日 令和2年2月1日

定員 9名(令和4年8月1日から空床型に変更)

③特別養護老人ホーム波岡の家(ユニット型)

指定年月日 令和4年8月1日

定員 50名

④ショートステイ波岡の家

指定年月日 令和4年8月1日

定員 10名

⑤デイサービスセンターカメリアの園

指定年月日 令和元年9月1日

定員 30名

⑥居宅介護相談センター波岡の家

指定年月日 令和2年4月1日 木更津市

⑦木更津市南部地域包括支援センター

指定年月日 令和元年7月1日 木更津市

事業内容

特別養護老人ホーム 花の里

所在地 千葉県南房総市和田町松田字水深808番地

電話 0470-47-5193 FAX 0470-47-5195

敷地面積 5,400.77 m²

延床面積 3,020.97 m²

嘱託医 医療法人社団優和会 松永醫院

協力病院 医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科

訪問歯科 亀田ファミリークリニック館山歯科センター

事業内容

①特別養護老人ホーム花の里

指定年月日 令和2年2月1日

定員 58名

- ②特別養護老人ホーム花の里指定短期入所生活介護事業所
指定年月日 令和2年2月1日
定員 12名
- ③デイサービスセンター花の里
指定年月日 令和2年3月1日
定員 25名
- ④居宅介護相談センター花の里
指定年月日 令和2年4月1日 南房総市
- ⑤在宅介護支援センター花の里
指定年月日 平成31年4月1日 南房総市

事業内容

特別養護老人ホーム 浮間こひつじ園
所在地 東京都北区浮間二丁目12番22号
電話 03-5970-0050 FAX 03-5970-0051
敷地面積 2,660.95 m²
延床面積 4,623.89 m²
嘱託医療法人社団信明会 オリーブ訪問クリニック駒場
協力病院 医療法人社団慈誠会 浮間舟渡病院
訪問歯科 城北デンタルクリニック・高橋歯科医院
事業内容 ①特別養護老人ホーム浮間こひつじ園(ユニット型)
開設年月日 平成29年10月1日
定員 70名
②特別養護老人ホーム浮間こひつじ園(従来型)
開設年月日 平成29年10月1日
定員 30名

(7)役員会実績
理事会

- ・令和4年度第1回 令和4年6月5日(書面決議)
議案 波岡の家建替え移転における物品等一般競争入札の結果及び落札業者との契約(案)の件
- ・令和4年度第2回 令和4年6月25日
議案 令和3年度 事業報告(案)の件
令和3年度 決算報告(案)の件
定款変更(案)の件
評議員選任・解任委員会監事(案)の件
理事長職務状況報告の件
波岡の家サービス島備品リース契約(案)の件
波岡の家給食業務委託契約(案)の件
波岡の家カーテンリース契約(案)の件
波岡の家運営規定(新規・変更)(案)の件
波岡の家警備契約(案)の件
浮間こひつじ園介護ソフトほのぼの更新(案)の件
波岡の家既存施設活用の件
経理規定変更(案)の件
波岡の家移転にともなう、畑沢建物及び土地の抵当権設定(案)の件
評議員会開催(案)の件
- ・令和4年度第3回 令和4年7月30日(書面決議)
議案 浮間こひつじ園火災保険更新の件
浮間こひつじ園就業規則改定と給与規定改定(案)の件

主たる事務所移転の件

- ・令和4年度第4回 令和4年9月25日 (WEB 開催) 評議員合同
議案 浮間こひつじ園職員の暴行により入居者様がお亡くなりになった事件の件
浮間こひつじ園事件による弁護士委任契約の件
- ・令和4年度第5回 令和4年10月9日 (WEB 開催)
議案 浮間こひつじ園事件における今後の検証について
- ・令和4年度第6回 令和4年12月18日
議案 浮間こひつじ園第三者調査委員会調査報告と今後についての件
花の里運営規定変更(案)の件
花の里警備契約更新(案)の件
理事長報酬支給(案)の件
理事長業務執行報告の件
- ・令和4年度第7回 令和5年2月26日
議案 浮間こひつじ園改善計画書(案)の件
浮間こひつじ園給与規定変更(案)の件
波岡の家複合機、パソコン、サーバー更新(案)の件
旧波岡の家活用について(案)
- ・令和4年度第8回 令和5年3月26日
議案 第1次補正予算書(案)の件
令和5年度事業計画(案)の件
令和5年度当初予算(案)の件
花の里施設長人事及び副施設長人事(案)の件
浮間こひつじ園施設長人事(案)の件
波岡の家給与規定及び給与規定細則一部改正(案)の件
旧波岡の家活用について(案)

評議員会

- ・令和4年度第1回 令和4年6月7日 (書面決議)
議案 波岡の家建替え移転における物品等一般競争入札の結果及び落札業者との契約(案)の件
- ・令和4年度第2回 令和4年7月10日
議案 令和3年度事業報告の件
令和3年度決算報告の件
定款変更(案)の件
- ・令和4年度第3回 令和4年12月18日
議案 浮間こひつじ園第三者調査委員会調査報告と今後についての件
理事長報酬支給(案)の件
- ・令和4年度第4回 令和5年3月26日
議案 第1次補正予算書(案)の件
令和5年度事業計画(案)の件
令和5年度当初予算(案)の件

社会福祉法人千葉育美会
波岡の家
令和4年度 事業報告書



特別養護老人ホーム 波岡の家
波岡の家 短期入所生活介護事業所
特別養護老人ホーム 波岡の家(ユニット型)
ショートステイ 波岡の家
デイサービスセンター カメリアの園
居宅介護相談センター 波岡の家
木更津市南部地域包括支援センター

目 次

令和4年度事業概要.....	7
1. 理念と基本方針.....	8
2. 組織図.....	9
3. 職員配置、資格取得、入退職者状況	10
4. 特別養護老人ホーム.....	11
5. 短期入所生活介護事業所（ショートステイ）	13
【特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所 状況】（従来型）	15
1. 入居者の状況.....	15
2. 行事、外出等の状況.....	17
3. 健康管理.....	18
4. 家族交流の状況.....	20
5. 地域福祉活動の実施.....	21
6. 職員研修.....	23
7. 実習生の受け入れ.....	24
【特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所 状況】（ユニット型）	25
1. 入居者の状況.....	25
2. 行事、外出等の状況.....	27
3. 健康管理.....	28
4. 家族交流の状況.....	30
5. 地域福祉活動の実施.....	31
6. 職員研修.....	32
7. 実習生の受け入れ.....	32
5. デイサービスセンター カメリアの園.....	33
利用者動向.....	36
6. 看護部門	38
7. 栄養部門	40
8. 総務グループ.....	42
9. 居宅介護相談センター波岡の家.....	44
請求実績.....	45
新規受け入れ数及び相談先.....	45
利用修了者数及び終了理由.....	46
年齢別利用者数・地域別利用者数・世帯状況.....	46
外部研修参加実績.....	47
10. 南部地域包括支援センター.....	48
1 相談.....	51
2 権利擁護業務.....	51
3 会議、研修会の開催、又は参加、及びPR活動等について.....	52
4 介護予防支援業務（予防給付関係）	52

5	訪問状況.....	52
別紙 1	令和 4 年度 認知症サポーター養成研修 実績.....	52
別紙 2	令和 4 年度 研修参加実績.....	53
別紙 3	令和 4 年度 地域活動.....	54

令和4年度事業概要

令和4年度につきましては、大きな出来事として、8月に移転増床を行ないました。これまでの従来型50床にくわえて、新たにユニット型50床を増床し、ショートステイもユニット型に転換いたしました。新設ではなく、既存施設からの移転でありましたが、関係者及び職員の協力のもと、無事に移転することができました。新施設での体制も年度後半には落ち着きはじめ、ユニット型はショートステイユニットを含む全6ユニット中、3ユニットまでオープンしております。次年度中には2階のフルオープンを目標に取り組んでまいります。新施設となり、職員数は約70名から110名と増えております。近隣からの応募や外国人雇用もすすめておりますが、無資格、未経験な介護職員もおり、今後は、職員教育をはじめとした職員定着が課題となります。

特別養護老人ホームでは、稼働率は91.7%であり、前年度コロナウィルスクラスターによる稼働低下から4.9%の増となりました。移転におけるユニット型に希望される方の移動から、新規入居者がおりましたが、退所される方も多く、最終稼働率は低い結果となりました。従来型では、2グループでのグループケアを展開すべく、試行錯誤をしております。次年度にはより、各グループでのケアが充実すべく、取り組みを行ないます。また、ユニット型については18.2%であります。経験の浅い職員も多く、入居のタイミングはコントロールをしております。年度末の3月には、ユニット型で、初めての看取りを行なわせていただきました。ユニット型では、少しずつですが、各ユニットでの特色がでてまいりました。次年度はより、ユニット毎での個別ケアの推進をしてまいります。

ショートステイでは、ユニットに転換することで、これまでの従来型での利用ではなく、個室でお過ごしいただけるようになりました。ユニット型であるため、細やかなケアが提供できるようになりました。今後はさらに利用者の個別ニーズにお応えできるように、取り組みたいと思います。稼働率としては70.5%であり、前年比プラス10.9%となりましたが、次年度は更なる稼働率を上げていけるようにしてまいります。

デイサービスでは、前年度稼働率に対して、8.5%増の60.8%の稼働率となりました。移転後から稼働率が上昇傾向になり、1日定員30名に対して、20名を超えてくる日が多くなりました。特に例年冬季には体調不良による稼働率の低下がみられますが、本年度は冬季においても稼働率が低下することなく、稼働状況が上がった状況を維持できたことが要因と考えられます。これまでハード面での課題が移転において改善したこともあり、新規利用者も増えました。今後は、さらなる利用者増員と、実際のサービスの質の向上に取り組むことが重要であると考えます。

居宅介護相談センターでは、移転のタイミングでケアマネジャーの増員ができました。これまでの2名体制から3名体制となり、受入れ担当者枠も増えました。今年度は担当件数に大きな変化はみられませんが、徐々に担当件数が増えており、次年度にはもう少し数字に反映されたいと考えます。もう1名増員ができれば特定事業所加算の取得も見込めるので、引き続き増員を目指すことと並行して、加算取得に向けた体制を構築してまいります。

地域包括支援センターでは、担当地域は変わりませんが、拠点が変わったことで、新たな地域との協力及び連携体制を築くことで、苦慮しておりました。これまでの大久保地区の関係性は継続しつつ、畑沢地区の地域づくりをすることは、後々強みとなると考えます。新施設では地域交流室もできたので、次年度は交流室を活用しながら、地域との関わりを深めてまいります。

最後に、施設が新たになり、これまでの組織体制から大きくなりつつあります。これまでの知識経験を活かしつつ、新しい展開を目指し、組織としての成長ができるタイミングであります。これまでハード面で上手くすすまなかったことにも積極的に取り組みながら、まずは特養のフルオープンを目指し、運営の安定化を目指すことを主とします。

施設長 佐々木英幸

1. 理念と基本方針

【 法人理念 】

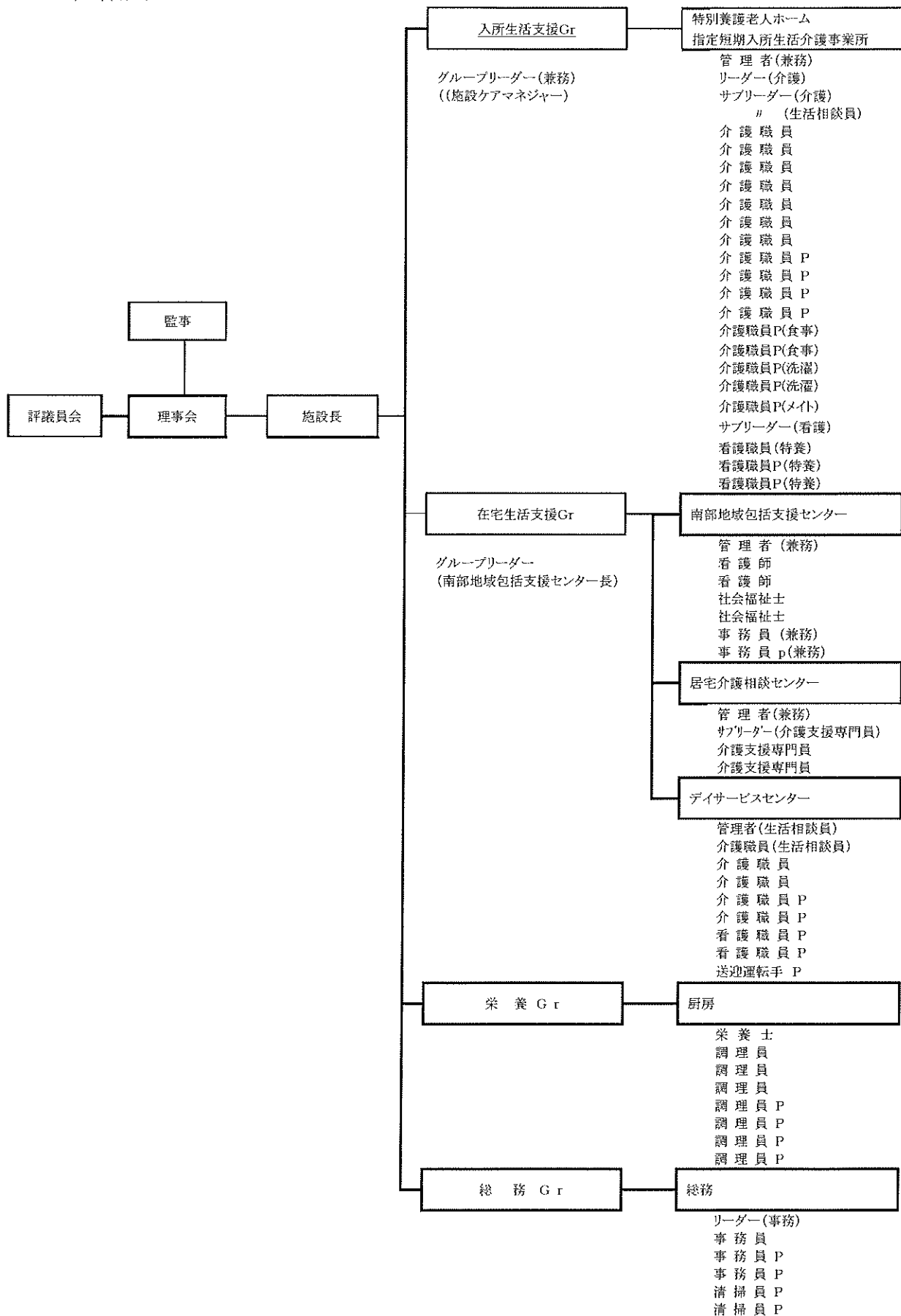
『ご入居者、ご利用者の尊厳を守り、その人らしく
笑顔で生活できることを支援します』

【 波岡の家 基本方針 】

- 1、 ご利用者の意思による自己決定の尊重をします。
- 2、 地域に開かれた施設を目指します。
- 3、 ご利用者、ご家族に信頼される職員となることを目指します。

2. 組織図

令和5年3月31日現在



3. 職員配置、資格取得、入退職者状況

・職員配置状況等(令和5年3月31日時点)

区 分	正職員	パート	計(人)
施設長	1	0	1
総務・事務員	2	4	6
相談員	3	0	3
施設介護支援専門員	1	0	1
看護職員	3	7	10
介護職員	27	33	60
運転	0	1	1
清掃・洗濯等	0	14	14
主任介護支援専門員	2	0	2
居宅介護支援専門員	1	1	2
社会福祉士	3	0	3
栄養士	1	0	1
計	44	60	104

・資格取得状況(令和5年3月31日時点)

区 分	正職員	パート	計(人)
社会福祉士	4	0	4
社会福祉主事任用資格	8	2	10
主任介護支援専門員	2	0	2
介護支援専門員	8	2	10
看護師	3	4	7
准看護師	0	4	4
介護福祉士	18	14	32
実務者研修	4	3	7
初任者研修	16	16	32
栄養士	1	0	1

・入退職者状況

※離職率は 離職者数÷((年度初日在職職員数+年度末在職職員数)÷2)×100 で計算

	入 職		退 職		在職職員数 (4/1 職員64)
	正職員	パート	正職員	パート	
4月	0	1	0	1	64
5月	2	0	0	1	65
6月	0	3	0	0	67
7月	3	2	0	0	72
8月	4	10	0	1	85
9月	1	6	0	0	92
10月	3	0	1	0	94
11月	2	1	0	1	97
12月	0	1	0	1	97
1月	1	3	0	0	100
2月	4	1	0	1	105
3月	0	1	1	3	104
計	20	29	2	9	離職率 13.1%

4、特別養護老人ホーム

【目 標】

- ・ご入居者の QOL の向上を目指します。
- ・前年度稼働率、87.35%より、稼働率92%、平均入所者数46人にします。
- ・施設移転に向けて、従来型のグループケアとユニット型ユニットケアの連動した展開が出来るよう準備します。

【重点課題】

1. 丁寧、配慮のある支援、楽しみのある生活を提供します。
2. 事故防止に努め、骨折事故ゼロを目指します。
3. 職員の意識改善、資質向上を目標に取り組んでいきます。
4. 施設移転に向けて、従来型のグループケアとユニット型ユニットケアの連動した展開が出来るよう準備します。

【実践結果】

特別養護老人ホームについては前年度実績 87.35%の稼働状況を踏まえ、本年度は92%の稼働率を目標に掲げておりました。従来特養は昨年度から続く職員不足も解消されない状態の中、施設移転を迎えることになりました。移転後はユニット職員増員を優先させなければいけない状況の為、職員不足や夜勤回数増加のまま、稼働率、職員増員や負担軽減の解決に繋がるが打てない状況が続いてしまいました。

また、年度始めより夜勤可能な常勤職員退職も重なり夜勤可能な職員が減り、夜勤数が月平均 6~7回と増加してしまったこともあり、業務負担軽減の為、各委員会やグループの会議もほとんど縮小化を余儀なくされました。令和 5 年度には、新規に採用した職員の教育をすすめ、業務の体制見直しと再構築を行い、目標稼働率の達成を目指します。

日中に関しては、EPA 職員と、入職して間もない職員と非常勤職員のみ構成での勤務の日もあることから、職員一人一人の能力向上やモチベーション維持にアプローチすべく、令和 5 年度は拠点全体での委員会として強化し、勉強会や研修の充実をはかります。

日々のケアについては、感染症対策の観点から、規模の縮小はありますが、ご入居者が楽しみのある生活を送れるように日々の業務に励んでいました。

1、丁寧、配慮ある支援、楽しみのある生活

職員不足により、業務優先せざるを得ない状況もありましたが、規模的には縮小傾向にはなりつつも、ご入居者の楽しみのある生活を重点課題とし継続してきました。ご入居者の方々の希望を叶えられるよう、できる範囲で、嗜好品の購入又は夏祭りや敬老会やクリスマス会に代わる行事を実施しました。

ご入居様の日々の関りから、生活歴や ADL の情報収集と共有といった面では、話し合う機会の減少しておりましたが、令和 5 年度に向け、充実できるよう対応していきます。

2、事故防止に努め、骨折事故ゼロを目指します。

今年度骨折を伴う重大事故は5件、転倒による外傷が1件と重大事故が計6件発生してしまいました。全体の事故件数に関しては増加傾向です。多動による座り損ねでの事故発生が最も多く発生。介護中の転倒や転落事故、その他歩行されているご入居者の転倒や、離設も見られています。所在確認や危険予測を行いながら、転倒リスクの高い方への付き添いも行っている状況の上、その時間帯の見守り、付き添い職員不足も要因の一つと考えられます。その他では職員個々に介助方法や行動の再確認も必要であると思われます。令和 5 年度は、職員の充実、安全対策委員会の強化、研修を定期的実施しながら、事故防止につながるよう取り組んでいきます。

3、職員の意識改善、能力向上を目標に取り組んでいきます。

外部研修に関しては引き続き、コロナウイルスの影響もあり、外部研修への積極的な参加できず、オンラインでの研修のみとなりました。内部研修、勉強会に関しては、ケース会議内でのKYT事故予防や虐待に関する研修、吐物処理含め感染に関する勉強会を実施。職員不足により、各委員会、勉強会や内部研修の規模を縮小を余儀なくされておりましたが、移転後、職員の増加や、当法人内で発生してしまった事件もあり、緊急で施設全体での身体拘束廃止・高齢者虐待や不適切な対応についての勉強会を実施、後、緊急時の対応や火災時の避難方法等、有事の際の研修を重点的に行っています。令和5年度は拠点全体での委員会、勉強会、研修をより充実させ、能力向上に努めます。

4、施設移転に向けて、従来型のグループケアとユニット型ユニットケアの連動した展開が出来るよう準備します。

今年度は施設移転も控えていた事により、事前に情報伝達し準備をした事で、ご入居者とご家族の希望を踏まえ、ユニット型への移動等スムーズに行えました。移転に伴い業務やタイムテーブルの見直しも行いながら従来型では2グループ制のケアを継続し実施しています。ユニット型との連動した展開といった部分に関しては、ソフト、ハードの面での違いもあり、タイムテーブルや業務の見直し行っている段階の為、具体的な展開は今後の課題となります。

5、波岡の家短期入所生活介護事業所・ショートステイ波岡の家(ショートステイ)

【 目 標 】

- ・ケアプラン・アセスメントを適切に活用しながら、利用中の生活を充実させるサービス提供を行います。
- ・ショートステイユニットで安心して生活できるように、職員の連携を密にします。
- ・前年度実績 58.7%を踏まえ、稼働率 70%・平均利用者数 6.3人にします。

【 重点課題 】

1. 利用者の変化に合わせたニーズを把握し、正確な情報を共有することで、質の高いサービス提供に繋がります。
2. 個々の過ごし方について見直しを行い、ショートステイ中の生活を充実させます。
3. 移転施設での開所を円滑に行います。

【 実践結果 】

令和4年度は、施設移転という、大きな節目の年となりました。特にショートステイについては、従来型多床室から、ユニット型個室での受け入れに変わりました。現在、従来型多床室は「波岡の家短期入所生活介護事業所」として空床型として受け入れを継続し、新たな事業所である「ショートステイ波岡の家」として、ユニット個室での10名定員の受け入れが加わっている状況です。7月まで利用されていたご利用者や居宅事業所に対しては、通知の上で、新たな事業所との契約を結び直しています。中にはご了承いただいた上で利用終了になった方もいらっしゃいますが、大半の方は、料金の変更も含めて説明させていただき、新事業所でのショートステイ利用継続をされています。

新事業所での受け入れが開始され、職員も新しくなりました。ユニットケアというサービス提供状況の変化もありましたが、職員やご利用者も徐々に慣れ、現在は落ち着いて過ごされています。

稼働率に関しては、旧波岡の家での7月までのショートステイ平均稼働率は70.5%、8月以降の新施設では59.4%でした。移転後は、入居ユニットも同時進行でオープンしていった状況の中で、ロングショートを利用されていた方が、施設入居に移行したり、入院されたことにより、変動が大きく見られました。今後も入居ユニットがフルオープンして落ち着くまでは、変動する可能性も高いです。

新型コロナウイルスに関しては、12月にショートステイご利用者から陽性が出てから、対策として入所時毎回の抗原検査を実施している状況です。コロナが5類に変わったことで今後感染対策をどのように考え実施していくのか検討が必要です。

- 1、利用者の変化に合わせたニーズを把握し、正確な情報を共有することで、質の高いサービス提供に繋がります。

移転により、過ごす環境や人員配置、職員自体も新しくなっています。ある程度は旧体制でのやり方を踏襲しているものの、新しい環境に合った方法を模索しながら進んでいる状況です。

ニーズの把握については、相談員が増えたことで、以前よりも多くの視点を持って情報収集ができた。素早い対応ができるようになった反面、入居を含めて以前よりも多くの方の情報も入ってくることから、個々のご利用者の情報把握や共有度合いにばらつきも感じられます。情報把握と周知・共有を適切におこなえるよう、職員同士の連携や情報共有の工夫をしながら、今後もサービス提供に繋がっていきます。

- 2、個々の過ごし方について見直しを行い、ショートステイ中の生活を充実させます。

併設ショートステイ専用のユニットになりました。入居の方とはほぼ一緒の空間でケアをおこなっていた従来型の体制から、ユニットケアという形になったことから、以前よりも個々のご利用者に対してのケアも密になってきています。今後も、個々のご利用に合わせた余暇活動などに取り組んでいきます。

3. 移転施設での開所を円滑に行います。

移転に関しては、移転や内覧会通知、料金説明・契約等、特に大きな問題もなくおこなうことができました。また、移転当日から数日は、長いご利用の方を除いて、ご了解を取った上で利用日程の調整をしています。

【 業務スケジュール 】

月	行事・その他	業務内容
4月	お花見→実施	
5月		移転の通知→実施
6月		新施設の設備や料金形態についての通知・説明→実施 新契約書作成→実施
7月	七夕→実施	新施設の設備や料金形態についての通知・説明→実施 契約説明→実施
8月	内覧会→実施 先祖供養→コロナのため中止	内覧会の対応→7月に実施 契約説明→実施
9月	施設移転→8/1 実施	移転の対応→8/1 実施
10月		
11月		
12月	クリスマス会→実施	
1月	正月→実施	
2月	節分→実施	
3月	雛祭り→実施	

特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所(従来型) 状況】

1、入居者の状況

- (1)年齢・性別状況
- (2)要介護度の状態区分
- (3)在籍期間
- (4)月別延人数・入所稼働率
- (5)入所稼働率の比較
- (6)入退所者の状況

(1)年齢・性別状況

令和 4 年度末現在での入所者の年齢・性別状況は「表-1」の通りです。男性の平均年齢は 81.7 歳、女性の平均年齢は 86.3 歳、全体の平均年齢は 85.0 歳となっております。90 歳以上の方が全体の 45%を占めている状況となっており、最高齢の入所者は 101 歳の方が 2 名いらっしゃいます。

「表-1」

	男性	女性	合計	構成比
60 歳未満	0	0	0	0%
60 歳～64 歳	0	0	0	0%
65 歳～69 歳	2	2	4	9.1%
70 歳～74 歳	2	2	4	9.1%
75 歳～79 歳	3	3	6	13.6%
80 歳～84 歳	0	5	5	11.4%
85 歳～89 歳	1	4	5	11.4%
90 歳～94 歳	3	13	16	36.4%
95 歳～99 歳	0	2	2	4.5%
100 歳以上	1	1	2	4.5%
合計	12	32	44	100.0%
平均年齢	81.7 歳	86.3 歳	85.0 歳(全体平均)	

(2)要介護度の状況

令和 4 年度末現在の入所者の要介護度の状態区分は「表-2」の通りです。男性の平均介護度は 3.7 で女性の平均介護度は 4.0、全体の平均介護度は 3.9 となっております。要介護度 4 及び 5 の方は全体で約 61%で、昨年度と比較し約 1%ほどの増加となっております。

要介護度の状態区分

「表-2」

介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護1	0	0	0	0.0%
要介護2	1	0	1	2.3%
要介護3	4	12	16	36.4%
要介護4	5	9	14	31.8%
要介護5	2	11	13	29.5%
合計	12	32	44	100.0%
平均要介護度	3.7	4.0	3.9(全体平均)	

(3)在籍期間

令和 4 年度末現在の入居者在籍期間は「表-3」となります。入居されて1年未満の方が 26%から 15.9%へ減少し、5 年以上入居されている方は昨年度の 6%から 11.4%へ増加。全体としての平均在籍期間は、4 年 1 ヶ月となっております。最も入所が長い方は 28 年 8 か月の在籍となっております。

「表-3」

在籍期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	1	6	7	15.9%
1年以上～2年未満	2	8	10	22.7%
2年以上～3年未満	1	3	4	9.1%
3年以上～4年未満	3	4	7	15.9%
4年以上～5年未満	2	5	7	15.9%
5年以上～10年未満	1	4	5	11.4%
10年以上	2	2	4	9.1%
合計	12	32	44	100%
一人当たりの平均在籍期間	6.1年	3.3年	4.1年(全員平均)	

(4) 入居稼働率

令和4年度の月別実人数、月別延日数及び入居稼働率は、「表-4」となります。令和4年8月からのユニット型特養が事業開始となり、5名移動となったことから、稼働率の低下がみられます。随時入居していただいている状況ですが、逝去による退居者も続き、稼働率を戻すことはできませんでした。

月別延日数・入居稼働率

「表-4」

	入居者実人数(月末)	入居延日数	稼働率
4月	49	1453	96.9%
5月	50	1527	98.5%
6月	50	1500	100%
7月	50	1550	100%
8月	46	1397	90.1%
9月	46	1354	90.3%
10月	45	1384	89.3%
11月	46	1368	91.2%
12月	45	1395	90.0%
1月	45	1341	86.5%
2月	42	1158	82.7%
3月	44	1314	84.8%
平均	46.5人	1395.1日	91.7%

(5) 入居稼働率の比較

令和3年度との実績比較は「表-5」のとおりとなります。クラスターの影響を受けた令和3年度からは稼働率を戻すことはできましたが、目標には届きませんでした。

入居稼働率の実績の比較

「表-5」

	令和3年度	令和4年度	比較
定員数	50人	50人	±0
入居延日数	16,037	16,740	+703日
稼働率	87.8%	91.7%	+4.9%

(6)入退居の内訳

令和4年度の入退居の内訳は、「表-6」のとおりです。令和4年8月からユニット事業開始し、5名の方はユニット個室を希望され移りました。それ以外の退所された方は、状況はそれぞれですが、すべて施設での看取りで亡くなられています。

「表-6」

入退居の内訳	入居実人員	入居内訳		退居実人員	退居内訳		
		老健・施設	在宅		長期入院	死亡	その他
4月	2	2	0	0	0	0	0
5月	1	0	1	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	5	0	0	5
8月	1	1	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	2	0	2	0
10月	1	0	1	0	0	0	0
11月	1	0	1	1	0	1	0
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	3	0	3	0
2月	0	0	0	1	0	1	0
3月	3	0	1	1	0	1	0
合計	9	5	4	13	0	8	5

2、行事、外出等の状況

- (1)行事
- (2)レクリエーション活動の状況
- (3)外出

(1)行事

令和4年度の行事实績は「表-6」の通りです。毎月担当者が企画しております。コロナ下の中であり、また、令和4年8月からの事業開始のため、全体的にはなく、ユニット単位での行事实績となっております。

令和4年度行事实施

「表-7」

	行事名	日程		行事名	日程
4月	お花見会	1~7日	10月	おやつバイキング	29日
5月	母の日写真撮影会	1~7日	11月	焼き芋会(秋の味覚)	15日
6月	七夕短冊作成	23~28日	12月	クリスマス&忘年会 カラオケ大会	24日
7月	七夕飾り付け	1~7日	1月	正月・お節料理 初詣	1~3日 1~7日
8月	施設移転にて中止		2月	節分	3日
9月	敬老会	21日	3月	ひな祭り お花見会	5日 26日

(2)レクリエーション活動の状況

令和4年度のレクリエーション実績は「表-8」の通りです。

ご入居者が日常の中で、楽しみを見いだせる事を目的としています。季節感が持てるようにフロアの飾りつけなどを、一緒におこなってます。

Youtubeなどを活用した歌や体操などで楽しんでいただいております。

○定期的なレクリエーション

「表-8」

レク名	頻度	参加者	内容
誕生日会	毎月1回	誕生日者	毎月誕生日を迎える方を対象に、誕生日ケーキでお祝いしています。(SSの方も含め)

○不定期で行なったレクリエーション

項目	内容
頭を使うレクリエーション	折り紙、数字合わせ、貼り絵、塗り絵等
体を使うレクリエーション	リハビリ体操、口腔ケア体操、風船バレー等
その他	カラオケ、音楽鑑賞、行事の飾り作成、口腔ケア体操、茶会等

(3)外出

令和4年度の外出実施状況は「表-9」の通りです。コロナ状況変わらず続いている為、外出は中止しています。

「表-9」

月日	外出先	目的	参加人数
4月から3月	なし		0名

3、健康管理

- (1)往診等の状況
- (2)医療機関への通院状況
- (3)病院別・入院状況
- (4)事故状況

ご入居者の健康管理の状況は、次の(1)から(3)の通りです。基本的には、嘱託医や歯科医の往診による診療を行い、その他に随時必要な際には、君津中央病院や萩原病院、橘川クリニック等の医療機関に受診をいたしました。夜間については看護職員がオンコール体制にて、夜勤者よりその方の状態を聞き、状態に応じて出勤し緊急対応等をいたしました。

(1)往診等の状況

令和4年度の回診状況は、協力病院である高洲訪問クリニックの医師が、月2回来所され、回診を行っていただいております。歯科治療につきましては、大隈歯科医院より歯科医師が往診に来て下さっています。口腔ケアや虫歯の治療、義歯の作成、調整等を行っていただきました。今年度もコロナの影響により、往診回数に変更が生じています。

(2) 医療機関への通院状況(令和4年度)

令和4年度の医療機関の通院状況は、表-10の通りです。嘱託医師である青木先生の専門が内科であるため、専門外である心療内科・整形外科・眼科・等を中心に外部診療での通院を行なっております。総合診療ができる君津中央病院の割合は全体の1%、内房整形外科の割合が全体の4%を占めております。特に近年では、心療内科領域での通院が増加傾向にあります。

「表-10」

	橘川クリニック	君津中央病院	内房整形外科	はぎわら病院	木更津保健所	玄々堂君津病院	重城病院	木更津東邦病院	上総記念病院	その他			合計
合計	176	2	8	4	0	3	0	6	0	5			204
割合	86%	1%	4%	2%	0%	1%	0%	3%	0%	2%			100%

(3) 病院別・入院状況

令和4年度は、骨折により内房整形に2名、内科系の治療目的で東邦病院に1名入院されています。今年も、症状の重症化や、入院を防ぐことができるよう努めてまいります。休日及び夜間に関しては、当番医に救急搬送要請対応させていただきました。

「表-11」

入院状況	人数	延日数	割合
内房整形	2	59	67%
東邦病院	1	12	33%
合計	3	71	100%

(4) 事故状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故件数	11	8	15	13	14	13	10	9	9	12	5	7	126

① 重大事故件数(事故後病院受診したもの)

件数	内容	
6件	骨折 5件	外傷 1件

② 事故報告結果から

令和4年度は令和3年度に比べ、+8件でした。転倒や転落事故、その他誤薬がありました。対応策として、センサーマット等の器具を使用や、服薬マニュアルの再徹底などをはかり、事故の再発防止に努めました。令和5年度は安全対策(事故防止)の研修に力を入れ、更なる事故防止に努めます。

4、家族交流の促進

- (1)面会者の状況
- (2)外出・外泊の状況

(1)面会者の状況(SS含む)

令和4年度 感染防止対策としての面会の流れ

- 4月～ 窓越し面会再開
- 8月～ 移転、感染者の増加に伴い、面会全体の中止
- 10月～ オンライン面会の再開
- 3月～ 直接面会、窓越し面会の再開

「表-13」の内訳としては、窓越し面会 138 名、オンライン面会 124 名、直接面会 41 名です。直接面会については、看取りや行政手続き等、やむを得ない状況の場合、制限中でも受け入れています。

「表-13」

面会延べ人数	1日の平均面会者数
303人	0.83人

(2)外出・外泊の状況

(外泊)

「表-14」のとおりです。

令和4年度は、新型コロナウイルスの流行による感染対策のため、外泊された方はおりません。

「表-14」

外泊	実人員	延件数	延日数
	0人	0件	0日

(外出)

新型コロナウイルスの流行による外出の制限をお願いしています。必要最低限での外出(銀行等の手続や受診等)をお願いしています。「表-15」の内容は、外出の多くは、ご家族対応での受診外出となっています。

「表-15」

	延べ人数	外出先		
		自宅	市内	市外
4月	2	0	2	
5月	3	0	1	2
6月	3	0	2	1
7月	1	0	0	1
8月	0	0	0	
9月	1	0	0	1
10月	3	0	1	2
11月	2	0	1	1
12月	2	0	0	2
1月	1	0	0	1
2月	2	0	1	1
3月	0	0	0	0
合計	20	0	8	12

5、地域福祉活動の実施

- (1) ショートステイの利用状況
 - ① ショートステイの稼働率
 - ② ショートステイ介護度別人数
 - ③ ショートステイ利用実績の比較
- (2) ボランティア活動の状況
- (3) 訪問の状況
- (4) 地域行事参加・交流

(1) ショートステイの利用状況

① ショートステイの稼働率

「表-16」の通りです。令和4年8月より併設・空床型から空床型に変更したことにより、利用実績はない状態です。

「表-16」

	利用延日数	稼働率(9床)
4月	221	81.8%
5月	208	74.5%
6月	177	65.5%
7月	168	60.2%
8月	0	0.0%
9月	0	0.0%
10月	0	0.0%
11月	0	0.0%
12月	0	0.0%
1月	0	0.0%
2月	0	0.0%
3月	0	0.0%
年度合計(平均)	774日	70.5%

② ショートステイの介護度別実人数

令和4年度のショートステイ介護度別実人数は、「表-17」の通りです。

月末の介護度で計算

「表-17」

介護度	利用実人数	構成比
要支援1	0	0.0%
要支援2	0	0.0%
要介護1	9	17.3%
要介護2	11	21.2%
要介護3	17	32.7%
要介護4	6	11.5%
要介護5	9	17.3%
合計	52	100.0%

③利用実績の比較

前年度との実績比較は「表-18」の通りとなります。

前年度と比較して、令和4年7月までの実績となりますので、利用延日数はマイナスですが稼働率は上がっています。

ショートステイ利用実績の比較

「表-18」

	令和3年度	令和4年度	比較
定員数	9人	9人	±0人
利用延日数	1,957日	774日	-1,183日
1月当たりの利用者数	163.0人	193.5人	+30.5人
稼働率	59.6%	70.5%	+10.9%

(2) ボランティア活動状況

新型コロナウイルスの流行により、受け入れを控えている状況です。令和5年度から受け入れ再開の検討をします。

「表-19」

	活動者	内容	実人員	延べ回数
4月～3月	なし			
合計				

(3) 訪問の状況

新型コロナウイルスの流行により、受け入れを控えている状況です。令和5年度から受け入れ再開の検討をします。

「表-20」

	団体名	人数	内容
4月～3月	なし		

(4) 地域行事参加・交流

コロナウイルスの流行による地域行事も中止もありますが、施設からの外出も難しい状態です。令和5年度から参加・交流再開の検討をします。

地域社会への参加

「表-21」

日程	内容	入居者参加数	場所
4月～3月	なし		

6、職員研修

- (1)外部研修実績
- (2)内部研修実績
- (3)グループ・法人間・施設間交流実績

(1)外部研修実績

令和4年度の外部研修の実績は「表-22」のとおりです。
事業開始に伴い必要な研修等にオンラインにて参加しました。

「表-22」

実施時期	研修内容	主催	参加人数
7月	安全対策担当者養成研修	全国老人福祉施設協議会	1人
3月	ユニットケア研修	全国個室ユニット型施設推進協議会	1人
合計		2回	2名
備考			

(2)内部研修実績

令和4年度の内部研修の実績は「表-23」のとおりです。
同法人の事件を受け、身体拘束適正化・高齢者虐待防止の研修を全職員に行っています。
施設全体での委員会発足前の研修に関しては、入所生活支援グループでケース会議内で小規模ではありますが、実施しております。

「表-23」

実施時期	研修内容	主催	参加人数
4月	感染対策(吐物処理)研修(1回)	看護師 研修委員会	5名
5月	身体拘束(褥瘡含む)(1回)	研修委員会	5名
6月	虐待研修(1回)	研修委員会	6名
7月	事故防止(KYT)研修(1回)	研修委員会	4名
8月			
9月			
10月	身体拘束適正化・高齢者虐待防止研修(4回開催)	地域包括支援センター	94名
11月			
12月			
1月	感染対策研修(3回開催)	看護職員	28名
2月			
3月	緊急対応時(安全対策)研修(3回開催)	木更津消防署	74名
	防災について(兼防災訓練)	施設内防火管理者資格所持者	15名
合計		15回	232名
備考			

(3)グループ・法人間・施設間交流実績

今年度のグループ、法人、施設間交流の実績は「表-24」のとおりです。新型コロナウイルスの影響で、夏祭りや敬老会などの行事が縮小となり、交流もない状況です。花の里の新型コロナクラスターの際には2名の職員が援助に行っております。

「表-24」

実施時期	内 容	備 考	参加人数
4 月	コロナクラスター対応	約4週間	2名
合計	1回		2名
備考			

7、実習生の受け入れ

新型コロナウイルスの流行はあったものの、実習の受け入れに関しては、令和4年度も引き続き可能な限り受け入れています。「表-25」のとおりです。

「表-25」

月	依頼元	内 容	実人員	延日数(実働)
4月				
5月	君津中央病院附属看護学校	老年看護学実習Ⅲ	2人	12日
6月				
7月				
8月				
9月	介護労働安定センター	介護実習	1人	1日
10月	君津中央病院附属看護学校	老年看護学実習Ⅲ	2人	12日
	君津中央病院附属看護学校	老年看護学実習Ⅰ	3人	9日
11月				
12月				
1月	稲毛ペコリーノ	職場体験	2人	2日
2月				
3月				
合計			10人	36日

特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所(ユニット型) 状況】

1、入居者の状況

- (1)年齢・性別状況
- (2)要介護度の状態区分
- (3)在籍期間
- (4)月別延人数・入所稼働率
- (5)入所稼働率の比較
- (6)入退所者の状況

(1)年齢・性別状況

令和4年度末現在での、入居者の年齢・性別状況は「表-1」の通りです。
 男性の平均年齢は96.4歳、女性の平均年齢は91.2歳、全体の平均年齢は92.5歳となっています。
 90歳以上の方が全体の65%を占めており、最高齢のご入居者は98歳です。

「表-1」

	男性	女性	合計	構成比
60歳未満	0	0	0	0%
60歳～64歳	0	0	0	0%
65歳～69歳	0	0	0	0%
70歳～74歳	0	0	0	0%
75歳～79歳	0	0	0	0%
80歳～84歳	0	1	1	7%
85歳～89歳	0	4	4	29%
90歳～94歳	1	3	4	29%
95歳～99歳	1	4	5	36%
100歳以上	0	0	0	0%
合計	2	12	14	100%
平均年齢	96.4歳	91.2歳	92.5歳(全体平均)	

(2)要介護度の状況

令和4年度末現在の入居者の要介護度の状態区分は、「表-2」の通りです。男性の平均介護度は2.5、女性の平均介護度は3.3、全体の平均介護度は3.1となっております。要介護度4及び5の方は全体の36%です。

要介護度の状態区分

「表-2」

介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護1	0	0	0	0%
要介護2	1	2	3	21%
要介護3	1	5	6	43%
要介護4	0	5	5	36%
要介護5	0	0	0	0%
合計	2	12	14	100%
平均要介護度	2.5	3.3	3.1(全員平均)	

(3) 在籍期間

令和4年度末現在の入居者の在籍期間は「表-3」となります。令和4年8月からの事業開始となりますので、全員が入居されて1年未満の方となります。旧波岡の家(大久保)からの移転に伴い、ご希望によりユニット型への移動された方は、ユニット型特養に移動してからの在籍期間としています。

「表-3」

在籍期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	2	12	12	100%
1年以上～2年未満	0	0	0	0%
2年以上～3年未満	0	0	0	0%
3年以上～4年未満	0	0	0	0%
4年以上～5年未満	0	0	0	0%
5年以上～10年未満	0	0	0	0%
10年以上	0	0	0	0%
合計	2	12	14	100%
一人当たりの平均在籍期間	0.6年	0.4年	0.45年(全体平均)	

(4) 入居稼働率

令和4年度の月別実人数、月別延日数及び入居稼働率は、「表-4」となります。令和4年8月からの事業開始となります。年度末に1名、施設でのお看取りにて退居されました。2丁目ユニット(ショートステイ)、3丁目ユニットに加え、令和5年2月22日より、4丁目ユニットをオープンしています。

月別延日数・入居稼働率

「表-4」

	入居者実人数(月末)	入居延日数	稼働率
4月	0	0	0%
5月	0	0	0%
6月	0	0	0%
7月	0	0	0%
8月	5	155	10.0%
9月	6	180	12.0%
10月	8	212	13.7%
11月	10	300	20.0%
12月	10	310	20.0%
1月	10	310	20.0%
2月	14	304	21.7%
3月	15	436	28.1%
平均	9.8人	275.9日	18.2%

(5) 入居稼働率の比較

令和3年度との実績比較は「表-5」とおりましたが、令和4年8月からの事業開始となりますので、数字的にはプラスになっています。

入居稼働率の実績の比較

「表-5」

	令和3年度	令和4年度	比較
定員数	0人	50人	+50人
入居延日数	0	2207	+2207日
稼働率	0%	18.2%	+18.2%

(6)入退居の内訳

令和4年度の入退居の内訳は、「表-6」のとおりです。令和4年8月から事業開始し、15名の入居となりましたが、3月に1名、施設でのお看取りにて退居されています。

「表-6」

入退居の内訳	入居実人員	入居内訳		退居実人員	退居内訳		
		老健・施設	在宅		長期入院	死亡	その他
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	5	5	0	0	0	0	0
9月	1	0	1	0	0	0	0
10月	2	0	2	0	0	0	0
11月	2	1	1	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	4	1	3	0	0	0	0
3月	1	0	1	1	0	1	0
合計	15	7	8	1	0	1	0

2、行事、外出等の状況

- (1)行事
- (2)レクリエーション活動の状況
- (3)外出

(1)行事

令和4年度の行事实績は「表-6」の通りです。毎月担当者が企画しております。コロナ下の中であり、また、令和4年8月からの事業開始のため、全体的にはなく、ユニット単位での行事实績となっております。

令和4年度行事実施

「表-7」

	行事名	日程		行事名	日程
4月			10月		
5月			11月	焼き芋会(秋の味覚)	15日
6月			12月	クリスマス コロナ発生のため中止	
7月			1月	正月・お節料理	1~3日
8月			2月	節分飾り	
9月	敬老会	23日	3月	ひな祭り お花見会	5日 26日

(2)レクリエーション活動の状況

令和4年度のレクリエーション実績は「表-8」の通りです。

ご入居者が日常の中で、楽しみを見いだせる事を目的としています。季節感が持てるようにフロアの飾りつけなどを、一緒におこなっています。

Youtubeなどを活用した歌や体操などで楽しんでいただいております。

○定期的なレクリエーション

「表-8」

レク名	頻度	参加者	内容
誕生会	毎月1回	誕生者	毎月誕生日を迎える方を対象に、誕生日ケーキでお祝いしています。(SSの方も含め)

○不定期で行なったレクリエーション

項目	内容
頭を使うレクリエーション	折り紙、数字合わせ、貼り絵、塗り絵等
体を使うレクリエーション	リハビリ体操、口腔ケア体操、風船バレー等
その他	カラオケ、音楽鑑賞、行事の飾り作成、口腔ケア体操、茶会等

(3)外出

令和4年度の外出実施状況は「表-9」の通りです。コロナ状況変わらず続いている為、外出は中止しています。

「表-9」

月日	外出先	目的	参加人数
4月から3月	なし		0名

3、健康管理

(1)往診等の状況

(2)医療機関への通院状況

(3)病院別・入院状況

(4)事故状況

ご入居者の健康管理の状況は、次の(1)から(3)の通りです。基本的には、囑託医や歯科医の往診による診療を行い、その他に随時必要な際には、橘川クリニック等の医療機関に受診をいたしました。夜間については看護職員がオンコール体制にて、夜勤者よりその方の状態を聞き、状態に応じて出勤し緊急対応等をいたしました。

(1)往診等の状況

令和4年度の回診状況は、協力病院である高洲訪問クリニックの医師が、月2回来所され、回診を行っていただいております。歯科治療につきましては、大隈歯科医院に加え、中村歯科医院も歯科医師が往診に来て下さっています。口腔ケアや虫歯の治療、義歯の作成、調整等を行っていただきました。今年度もコロナの影響により、往診回数に変更が生じています。

(2)医療機関への通院状況(令和4年度)

令和4年度の医療機関の通院状況は、表-10の通りです。嘱託医師である青木先生の専門が内科であるため、専門外である心療内科・整形外科等を中心に外部診療での通院を行なっております。令和4年8月からのため、通院件数は少ない状況です。

「表-10」

	橘川クリニック	君津中央病院	内房整形外科	はぎわら病院	木更津保健所	玄々堂君津病院	重城病院	木更津東邦病院	上総記念病院	その他	合計
合計	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5名
割合	60%	0	20%	20%	0	0	0	0	0	0	100%

(3)病院別・入院状況

令和4年度は、肺炎や心不全、尿路感染、腸閉塞の内科系の治療目的で君津中央病院や萩原病院、上総記念病院に8名入院されています。今年も、症状の重症化や、入院を防ぐことができるよう努めてまいります。休日及び夜間に関しては、当番医に救急搬送要請対応させていただきました。

「表-11」

入院状況	人数	延日数	割合
君津中央病院	0	0	0%
君津中央病院・大佐和分院	0	0	0%
上総記念病院	0	0	0%
萩原病院	0	0	0%
合計	0	0	0%

(4)事故状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故件数	0	0	0	0	1	1	1	5	3	3	3	1	15

①重大事故件数(事故後病院受診したもの)

件数	内容		
0件	なし		

②事故報告結果から

令和4年度は、骨折を伴う事故はありませんでした。受診や、入院等はなかったものの、転倒、転落、誤薬があり、センサーマット等の器具を使用や、服薬マニュアルの再徹底などをはかり、事故の再発防止に努めました。令和5年度は安全対策(事故防止)の研修に力を入れ、更なる事故防止に努めます。

4、家族交流の促進

- (1) 面会者の状況
- (2) 外出・外泊の状況

(1) 面会者の状況(SS含む)

令和4年度 感染防止対策としての面会の流れ

- 4月～ 窓越し面会再開
- 8月～ 移転、感染者の増加に伴い、面会全体の中止
- 10月～ オンライン面会の再開
- 3月～ 直接面会、窓越し面会の再開

「表-13」の内訳としては、窓越し面会5名、オンライン面会30名、直接面会19名です。直接面会については、看取りや行政手続き等、やむを得ない状況の場合、制限中でも受け入れています。

「表-13」

面会延べ人数	1日の平均面会者数
54人	0.2人

(2) 外出・外泊の状況

(外泊)

「表-14」のとおりです。

令和4年度は、新型コロナウイルスの流行による感染対策のため、外泊された方はおりません。

「表-14」

外泊	実人員	延件数	延日数
	0人	0件	0日

(外出)

新型コロナウイルスの流行による外出の制限をお願いしています。必要最低限での外出(受診対応等)をお願いしています。「表-15」の内容は、外出はすべて受診対応のためののご家族対応での外出となっています。

「表-15」

	延べ人数	外出先		
		自宅	市内	市外
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	2	0	2	0
1月	0	0	0	0
2月	0	0	0	0
3月	1	0	1	0
合計	3	0	3	0

5、地域福祉活動の実施

- (1) ショートステイの利用状況
 - ① ショートステイの稼働率
 - ② ショートステイ介護度別人数
 - ③ ショートステイ利用実績の比較
- (2) ボランティア活動の状況
- (3) 訪問の状況
- (4) 地域行事参加・交流

(1) ショートステイの利用状況

① ショートステイの稼働率

「表-16」の通りです。令和4年8月より事業開始し、波岡の家短期入居生活介護事業所で定期的に利用されていた9名を含み、新規利用25名、緊急利用2名、他界による利用終了1名、その他事業所への入所や変更が1名、波岡の家に入居による利用終了が6名です。令和5年度4月以降の新規の相談が多く来ております。

「表-16」

	利用延日数	稼働率(10床)
4月	0	0.0%
5月	0	0.0%
6月	0	0.0%
7月	0	0.0%
8月	175	56.5%
9月	155	51.7%
10月	191	61.6%
11月	160	53.3%
12月	158	51.0%
1月	236	76.1%
2月	192	68.6%
3月	176	56.8%
年度合計(平均)	1,443日	59.4%

② ショートステイの介護度別実人数

令和4年度のショートステイ介護度別実人数は、「表-17」の通りです。

月末の介護度で計算

「表-17」

介護度	利用実人数	構成比
要支援1	0	0.0%
要支援2	3	2.9%
要介護1	8	7.6%
要介護2	28	26.7%
要介護3	29	27.6%
要介護4	26	24.8%
要介護5	11	10.5%
合計	105	100.0%

③利用実績の比較

前年度との実績比較は「表-18」の通りとなります。

ショートステイ利用実績の比較

「表-18」

	令和3年度	令和4年度	比較
定員数	0人	10人	+10人
利用延日数	0日	1,443日	+1,443日
1月当たりの利用者数	0人	180.3人	+180.3人
稼働率	0%	59.4%	+59.4%

(2) ボランティア活動状況

従来型の「(2) ボランティア活動状況」参照。

(3) 訪問の状況

従来型の「(3) 訪問の状況」参照。

(4) 地域行事参加・交流

従来型の「(4) 地域行事参加・交流」参照。

6、職員研修

(1) 外部研修実績

(2) 内部研修実績

(3) グループ・法人間・施設間交流実績

(1) 外部研修実績

従来型の「(1) 外部研修実績」参照。

(2) 内部研修実績

従来型の「(2) 内部研修実績」参照。

(3) グループ・法人間・施設間交流実績

従来型の「(3) グループ・法人間・施設間交流実績」参照。

7、実習生の受け入れ

従来型の「7、実習生の受け入れ」参照。

5、デイサービスセンターカメリアの園

【 目 標 】

安定した在宅生活を送っていただくために心身の維持・向上を行います

1 日平均 20 名の利用者様の受け入れをします 最低ライン 18 名
認知症対応力の向上

【 重 点 目 標 】

1. 法人内外を問わず、関係機関及び事業所との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図るとともに事業運営基盤の強化と利用効率の向上を図ります。
2. 新型コロナウイルス感染症感染防止及び拡大防止のため早急なマニュアルを作成します
3. 業務内容の見直しと変更を行います
4. 職員一人ひとりの接遇及び能力向上を図ります

【実 践 結 果】

年度当初は昨年度の利用者減少から脱却することができず、微増で推移しましたが、移転前から利用希望の方が増え始め、移転後から年内にかけて利用者が増加しました。移転を契機に 20 名の方が新規で利用されております。7月まで1日平均 16.5 名であったところ、年度末までには 20 名になりました。今後は、この利用者数を維持することはもちろんのこと、さらに増加できるように継続していたレク活動の充実及び情報発信、居宅事業所との連携を基本に、新規利用者の受け入れに取り組みます。

今年度も、まず利用者様、家族様に安心してデイサービスをご利用いただけるよう、感染症対策を継続してまいりました。クリアボードの設置、送迎時の検温・消毒、施設入館時の消毒、デイサービスルームへの入室毎の消毒、ご利用者・職員のマスク着用、職員のゴーグル着用を徹底して実施しています。

ご家族、ご利用者、もちろん職員もコロナを持ち込んではいけないと意識して下さったお陰で、施設内での感染症拡大はありませんでした。ただし、利用者ご本人の感染は認められませんでした。同居ご家族の感染が3件ほどありました。皆様、濃厚接触者としての隔離期間を経て利用再開をされております。令和 5 年 5 月 8 日より、新型コロナウイルス感染症の感染症分類が 5 類となりますが、引き続き感染対策を行いデイサービスの営業を行います。

次年度は施設の移転から 1 年が経過します。業務内容の改善点が見え始めておりますので早急に対応し、今以上の上質なサービスが提供できるように取り組みます。

レクリエーションや機能訓練においても、物品の充足や機材の導入を行い、ご利用者皆様の日常生活の満足度を高めてまいります。

【 具体的方策 】

1. 利用者の健康が維持できるよう支援します。
コロナウイルス対策等、感染症の注意喚起情報を利用者へ手紙を配布し、ご家族含めての周知を行いました。送迎での対応や施設内での対応は都度変更し、最善を尽くすようにしております。
在宅生活が基本の方々を受け入れておりますので、確実な侵入防止は望めませんが、ご家庭内の様子を常に把握し、感染拡大防止に努めてまいります。
2. 在宅生活を送られる手段として、デイサービスを身近に感じていただけるようにします。
今年度も、ボランティアの受け入れが出来ませんでした。外出を徐々に行うことが出来ました。
園内での小さな行事も複数回行うことで皆さんに満足していただきましたが、今後は日常での園内での過ごし方を重点に変更していきます。

ご利用者からは「楽しめています」との声を聴くことはありますが、改めて不満や気になる場所などを問いかける必要があります。特にご家族からの意見を伺いたく思います。

カメリアの園としての方向性はレスパイトとしての受け皿が強いので幅広い利用者の受け入れが出来るようにする必要があります。

カメリアの園が、困りごとの解決できる施設になれるよう、様々な症例の勉強を行い、園内での生活、自宅での生活に反映できるように取り組んでまいります。

3. 利用者が安心してご自宅での生活ができるように支援します

継続して、朝礼・夕礼を開催し、情報共有に努め十分定着しています。

一方で、訪問時などを利用した個別会議が、開催できていませんでしたので、少人数でも開催できるようにフォーマットを作成し幅広く意見を求めることができました。普段の記録なども充実させる必要もあり、次年度は記録の拡充に努めます。日頃より利用者本人がどこまで出来るのかの見極めを行い、その情報を職員全員で共有し、維持に目を向けリハビリに力を入れます。

4. カメリアの園での生活を有意義に過ごすためにレクリエーションを充実します

移転後の施設においても、機能訓練の機材を有効活用できていません。

十分なスペースがないことが原因でもあります。機材に対しての知識不足も原因と考えます。

スペースに関しては未使用のテーブルを撤去し対応する予定です。機材に関しては専門分野の方から

教えていただけるように調整します。

レクリエーション自体は、前施設と変わり広く実施できるようになりましたので内容の幅が広がりました。

レクリエーションと機能訓練のそれぞれを充足し、有意義な生活を送って頂ける様に努めます。

5. 介護職員としての資質向上を行います。

新人研修については法人全体で行うようになりましたのでそれに準じています。

現存の職員に対しては同内容を説明しています。

介護技術不足が顕著であるため従来型特養及びユニット型特養への研修も検討します。

6. 移転に向けての準備を行います

移転は無事に実施できました。引っ越し日はデイサービスを休業しています。

【 業務スケジュール 】

月	行事計画:内容	研修計画(内部)	業務計画
4月	外出:苺狩り・花見	倫理、法令遵守、介護保険理解	
5月	母の日:プレゼント作成		
6月	父の日:プレゼント作成	事故発生等の緊急時の対応 非常災害時の対応について	
7月	七夕:短冊作成	食中毒対策	
8月	夏祭り:ダイルームにてイベントブース設置		上半期振り返り
9月	敬老会:お祝い		
10月	運動会	虐待防止	業務振り返り
11月	外出:紅葉ドライブ		
12月	クリスマス:手作りおやつ		下半期振り返り
1月	お正月:初詣		
2月	節分:豆まき		年度末振り返り 次年度計画
3月	ひな祭り:手作りおやつ	救急法	次年度計画周知
その他		外部研修についてはその都度開示。 入職年数に応じた研修への参加。	

利用者動向

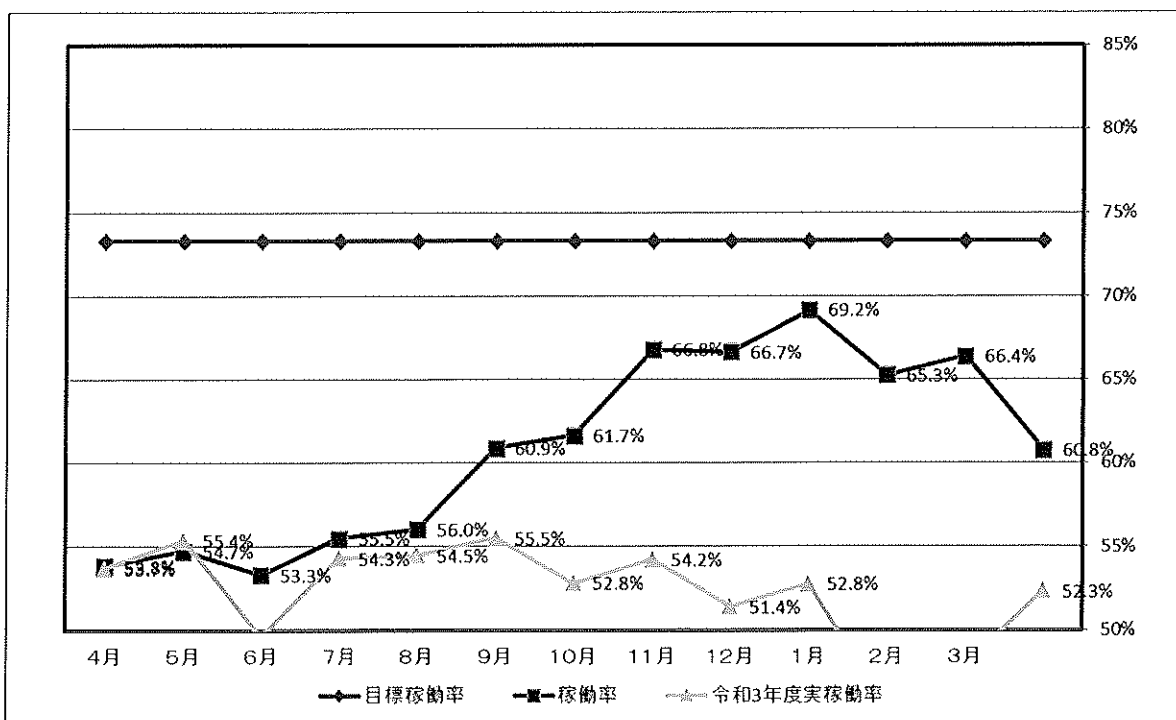
(1) 利用者実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
総合支援事業													0人	0.0%
要支援1	7人	8人	7人	7人	6人	6人	6人	5人	6人	7人	7人	6人	78人	11.4%
要支援2	15人	13人	13人	13人	13人	12人	12人	11人	11人	10人	7人	9人	139人	20.3%
要介護度1	11人	11人	10人	10人	13人	14人	13人	13人	14人	15人	15人	14人	153人	22.4%
要介護度2	9人	11人	11人	10人	11人	15人	17人	17人	16人	17人	16人	16人	166人	24.3%
要介護度3	6人	6人	5人	4人	3人	3人	3人	4人	5人	6人	8人	6人	59人	8.6%
要介護度4	4人	5人	5人	6人	8人	7人	8人	8人	8人	9人	8人	9人	85人	12.4%
要介護度5	1人							1人	1人	1人			4人	0.6%
合計	53人	54人	51人	50人	54人	57人	59人	59人	61人	65人	61人	60人	684人	100.0%

(2) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均	前年度
稼働日数	26日	26日	26日	26日	27日	26日	26日	26日	26日	24日	24日	27日	310日	310日
総合支援事業	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	30人
要支援1	27人	32人	32人	28人	27人	25人	24人	24人	22人	28人	28人	27人	324人	404人
要支援2	107人	101人	95人	114人	107人	100人	99人	93人	91人	76人	54人	75人	1112人	955人
要介護度1	122人	123人	122人	119人	136人	141人	134人	145人	146人	154人	139人	167人	1648人	1417人
要介護度2	77人	92人	92人	95人	94人	119人	127人	140人	122人	109人	123人	137人	1327人	988人
要介護度3	59人	55人	50人	44人	40人	41人	44人	51人	65人	74人	81人	80人	684人	838人
要介護度4	22人	24人	25人	33人	50人	49人	53人	57人	62人	48人	45人	52人	520人	195人
要介護度5	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	11人	12人	9人	0人	0人	38人	40人
利用延人数	420人	427人	416人	433人	454人	475人	481人	521人	520人	498人	470人	538人	5653人	4867人
一日の利用人数	162人	164人	160人	167人	168人	183人	185人	200人	200人	208人	196人	199人	182人	
目標稼働率	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%	73.3%
実稼働率	53.8%	54.7%	53.3%	55.5%	56.0%	60.9%	61.7%	66.8%	66.7%	69.2%	65.3%	66.4%	60.8%	60.8%
差異	-19.5%	-18.6%	-20.0%	-17.8%	-17.3%	-12.4%	-11.6%	-6.5%	-6.6%	-4.1%	-8.0%	-6.9%	-12.5%	
達成率	73.5%	74.7%	72.8%	75.7%	76.5%	83.1%	84.1%	91.1%	91.0%	94.4%	89.1%	90.6%	82.9%	
令和3年度実稼働率	53.7%	55.4%	49.6%	54.3%	54.5%	55.5%	52.8%	54.2%	51.4%	52.8%	45.4%	47.9%	52.3%	

※目標稼働率は1日平均22名 ※定員30名



男女構成人数

介護度 性別	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	3	0	5	4	4	1	0	17
女	3	10	10	13	4	9	0	49

年齢・介護度別

介護度 年齢	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
64歳～75歳	0	0	1	2	0	1	0	4
76歳～85歳	4	2	3	5	5	3	0	22
86歳～95歳	1	6	9	8	3	6	0	33
96歳以上	1	2	2	2				7
合計	6	10	15	17	8	10	0	66

世帯構成

1人暮らし	18
高齢者世帯	11
息子・娘と同居	34
サ高住等	3

平均年齢

男性	83.2歳
女性	89.1歳

平均介護度

要支援	1.6
要介護	2.3

在住地区別

木更津市 大久保	19
木更津市 八幡台	7
木更津市 畑沢	18
木更津市 畑沢南	4
木更津市 小浜	4
木更津市 請西	1
木更津市 羽鳥野	1
木更津市 矢那	1
木更津市 烏田	1
木更津市 港南台	4
木更津市 真舟	1
木更津市 大和	1
木更津市 中央	1
木更津市 桜井新町	1
君津市 南子安	1
君津市 陽光台	1
合計	66

6、看護部門

【 目 標 】

利用者、職員の心身の状態を把握し健康管理を行います。また、利用者の尊厳に十分配慮しながら看取り介護を行います

【 重点目標 】

1. 利用者の健康管理
2. 施設内感染対策の徹底
3. 看取り介護の充実
4. 職員の健康管理
5. 移転後における看護業務の運用方法の検討と円滑な移行

【 実践結果 】

一昨年度のクラスター発生の経験から、未だ続くコロナウイルス対策としての対応を基本として、集団感染を発生させないよう努めました。全職員が週 2 回の定期抗原検査を実施し、コロナウイルス感染の早期発見と出勤停止の対応で、施設内へのウイルスの持ち込みや拡大がないように努めました。しかしながら、12 月にショートステイ利用者から陽性者がでてしまい、ユニット職員1名と入居者1名への感染が判明。保健所の指導のもと、隔離対応を実施し、それ以上の感染の拡大は防ぐことができました。以後、ショートステイご利用ごとに、入所時の抗原検査を実施するなど対策を強化することによって、その後の感染は防ぐことができいております。

入所者は囑託医及び協力病院との連携により、入院も 3 件と少なく、体調不良の早期発見、早期対応ができていたと考えます。移転に伴い看護職員の増員はありましたが、多層階になり動線が長くなったことによる業務負担や物品の不足があり、業務の見直しや物品の充足に取り組んでおります。

1. 利用者の健康維持と疾病の早期発見・早期対応を行います
 - (1) 他職種と連携し、日々の観察を行ない、病状の重症化、入院を防ぐ点については、現場介護職員と連携し、状態の詳細把握をしました。入院者は例年と比較して延べ人数は少なく、日々の観察や早期対応が出来ていると評価します。今後も継続して体調不良の早期発見、早期対応に努めます。
 - (2) 移転後は、医療依存度の高いショート利用者は減少しておりますが、職員体制を充実させることで、今後は取り組めると考えます。
 - (3) 数件の誤薬事故がありました。看護師が率先して、誤薬防止三確認を行なっています。薬のセット時にダブルチェックをしているものの、介護職員が事前に発見した事例と基本的な三確認を怠っていた事例がありました。外国のスタッフにもわかりやすいマニュアルに作成し直したり、薬袋にローマ字を印字するなど、誤薬防止に努めています。
 - (4) 事故後の検討、事故調査委員会には、出来るだけ出席して意見を述べています。看護職員内でも会議をはじめ、日々情報共有と検討をしています。
 - (5) 個別のリハビリテーションも可能な限り、実施をしましたが、移転後は環境も変わり、十分に取り組みませんでした。現場介護職員と連携し、機能維持及び向上が見込まれる方には、引き続き取り組みます。
2. 感染症に対する意識を高め予防や蔓延防止します
 - (1) コロナ肺炎ワクチンの接種を優先したため、肺炎球菌ワクチン接種は勧めることができませんでした。インフルエンザ予防接種及びコロナワクチン接種は 5 回目を終了しております。全職員の定期抗原検査実施については、初めての取り組みであり、段取りや周知の仕方に苦慮いたしました。各自で実施できるまでになりました。感染対策を意識することで、職員家族、デイサービス・ショートステイ利用者からの陽性者は発生したものの、集団感染には至らず、予防できたので継続して対応していきます。
 - (2) 看護主体によるノロウイルス対策嘔吐処理勉強会は、移転により実施が 2 月と遅くなりましたが、

多くの介護職員が参加し、各フロアごとに嘔吐処理セットの配置もできました。

- (3) 衛生委員会をはじめ、必要に応じて施設運営会議、責任者連絡会にも参加し、各部門責任者と連携し、情報共有と発信に努めました。
- (4) コロナウイルス感染症に限らず、各感染症の初動対応等を都度確認し、マニュアルの変更を行いました。状況によって、臨機応変に対応をしなければならないので、現場責任者をはじめ、主治医及び協力医療機関等と連携し対応しました。
- (5) 体調不良時の相談を受け、各現場役職者と相談し、早退や休みをすすめるように努めました。嘱託医との連携にて必要な際には、相談、助言を受け対応しました。

3. 看取り介護を充実させます

- (1) 今年度は従来で8名、ユニットで1名の看取りをいたしました。入所時及び体調不良時には生活相談と連携しながら、本人、家族の意向を都度確認し、嘱託医、他職種と連携し、カンファレンスを重ねながら看取りを行いました。ユニットでは初めての看取りとなりましたが、看護師と現場介護職員でマニュアルの確認をしたり、一緒にケアに入るなど連携をして、混乱することなく対応することができました。
- (2) グリーフケアや職員向け振り返りについては、集まって会議までは、未実施ですが、看護G内や職員個別に意見を聞いたりして、振り返りをしています。

4. 職員の健康管理をサポートします

- (1) 例年の年2回の深夜業務従事者、年1回の職員健康診断の実施をしました。産業医医師に確認いただき、一部の有所見者へ医師面談をしています。引き続き、産業医と連携し早期異常の発見と受診につなげ、職員の健康管理をすすめます。
- (2) 定例のストレスチェックを実施していますが、データ分析までには至りませんでした。職員のメンタルケアの一端として、健康も含め相談、助言を行ないました。

5. 移転後における看護業務の運用方法の検討と円滑な移行

- (1) 移転増床における、ユニット型・従来型における看護業務の役割分担、動線を確認し、円滑に業務ができるように看護グループ会議で意見を出し合いながら取り組んでおります。
- (2) 以前の業務を基本としながら、設備備品の見直し、物品のディスプレイなど費用対効果をふまえて運用しています。

7、栄養部門

【 目 標 】

美味しく、楽しく、季節を感じられる食事を作ります。

【 重 点 目 標 】

1. 委託業者との連携を確立し、美味しく食べていただくための創意工夫を行います。
2. 食の安全への取り組みを実施します。
3. 新しい施設での業務の安定化に取り組みます。

【 実 践 結 果 】

前年度の1月に日清医療食品への業務委託となり、1年が過ぎました。自前の時との自由度や厨房職員の調理レベルの差を感じながらも、安定した提供ができるようになってきたと思います。パン食、麺食、デイサービスの選択食などの中断されていたイベント食も提供できるようになりました。移転後の新しい環境も工夫して上手くやっていただいています。が、清掃面や設備の扱い、人員配置の不備等、不満を感じる点も多々ある状況です。

【 具体的方策 】

1. 委託業者との連携を確立し美味しく食べていただくための創意工夫を行います。
 - (1)委託業者の現場責任者と各担当者と、当施設部署責任者参加による栄養定例会議を毎月開催し、率直な意見や情報のやりとりを行い、質の向上に努めましたが、一進一退。受託委託の関係は超えられておりません。高い壁です。
 - (2)暦や季節に合わせた献立作成を基本とし、その中で季節の食材を使ったメニューや生フルーツの使用することでひと手間かけました。選択食、麺食も再開し、週一ペースで提供しています。
2. 食の安全への取り組みを実施します。
 - (1)施設内でのコロナ発生時も、食中毒を発生させることなく、提供ができました。
 - (2)清掃状況に問題あり。行ってくれているが、自前の時と比べると、物足りなさを感じるし、新設なので余計汚れが目につく。
- 3.新しい施設での業務の効率化、最適化に取り組みます。
 - (1)初めての温冷配膳車やエレベーターの使用、厨房の縮小等、環境、設備の変化がありましたが、大きな問題等は起こさず、工夫を重ねつつ、業務に取り組みました。
 - (2)災害発生時における備え、長期利用者分は日清医療食品で、デイサービス利用者及び職員や福祉避難所としての分は施設で用意することになっているので、賞味期限を気にしつつ、揃えていっています。が、人数が増えた分、量も増え保管スペースに困っています。

【 業務スケジュール 】

月	暦・季節	施設行事
4月	春御膳	
5月	子供の日	
6月	入梅行事食	
7月	七夕	
8月	処暑の行事食	引っ越し
9月	敬老の日御膳	
10月	秋の行事食	敬老会
11月	秋の味覚御膳	
12月	クリスマス	
1月	正月	
2月	節分	
3月	雛祭り・彼岸	

8、総務グループ

【 目 標 】

- ・円滑な開所ができるように、具体的なスケジュールリングを策定し、管理及び周知します。
- ・間接部門として、移転後も各部門が円滑な業務が遂行できるよう支援します。
- ・開所後の運営を早期に安定させる為、満床稼働の計画を現場と共有し、設備、備品等のランニングコストを明確にすることで、収支把握をおこない、適切な運営を目指します。

【 重 点 目 標 】

1. 計画的かつ円滑に移転できるよう、既存及び移転施設業務に支障をきたさないようにします。
2. 適正な収益確保と設備・備品等のランニングコストを明確にします。
3. ご利用者が安心して利用できるように明るく居心地の良い環境作りに取り組みます。
4. 地域に根ざした施設となるよう、地域貢献、地域活用されるようにします。

【 実 践 結 果 】

最重要課題であった移転を、各部署の皆様のおかげで滞りなく無事に終えることができました。普段の業務に加え開所までの準備とやるべきことが多く大変でした。また、既存施設からの移動、新施設への物品の搬入にあたり、他部署からも多くの労力をいただきました。不足するものの買い出しや発注についてはコスト意識をもって経費節減に努め、速やかに行うことで業務の遂行に支障をきたさないようにしました。

満床稼働の計画を現場と共有し、職員の募集を行い、3ユニットの開所をすることができました。

今後も収入の確保に努め、安定した経営ができるようにしていきます。

コロナウイルス感染症の影響で地域交流室の開放が出来ていませんが、今後、地域の方が活用出来るようになることもっと身近な施設になり、知ってもらうことで必要とされる施設となれるようにしていきたいと思えます。

【 具体的方策 】

- 1、計画的かつ円滑に移転できるよう、既存及び移転施設業務に支障をきたさないようにします。
 - (1)開所までのスケジュールを明確にして、周知しスムーズな移転ができるようにしました。
 - (2)職員が、働きやすい職場となるよう住宅確保の支援、福利厚生充実を目指しました。
 - (3)増床に伴う職員拡充の為、求人広告、媒体等方法、円滑な入職手続きをしました。
 - (4)新パンフレットの作成、増床による入所申込、手続き等を支援しました。
 - (5)移転に伴う必要物品の準備及び購入、既存施設から持ち込みする備品等の確認をしました。竣工後の納品設備、備品の確認を行ない、開所時に円滑に運営できるようにしました。
 - (6)移転先の設備備品のリース状況を把握、リスト化できていませんが、既存施設のリース等契約状況をみて解約等を行ない、不要なコストが発生しないようにしました。
- 2、適正な収益確保と設備・備品等のランニングコストを明確にします。
 - (1)4半期に1度、仮決算は、作成できませんでした。
既存の従来型に加え、ユニット型における加算取得など、収入確保をしました。
 - (2)福祉医療機構及び協調銀行からの融資返済計画の把握をし、適切に運営と返済を行うため毎月の収支把握と資金確保をしました。また、物品購入等は、比較検討して経費節減をしました。
- 3、明るく居心地の良い環境作りに取り組みます。
 - (1)毎日の食事を楽しみにしていただけるよう掲示物の工夫をしたり、お誕生カードの作成をし、特別な日となるように誕生カードを手渡ししました。
 - (2)ご利用者が新しい施設に少しでも早く馴染んでいただけるような楽しめるイベントを企画実施はできませんでした。ご家族との面会については、オンライン面会に加え、窓越し・対面面会を実施し、窓越しでもご利用者に会えるようにしました。

(3)施設内の環境美化に努め、毎日の清掃をすることで奇麗を維持しました。

4. 地域に根ざした施設となるよう、地域貢献を積極的に、地域活用されるようにします。

(1)ホームページと広報誌の充実に努めました。

①地域や外部の方に、施設の日々の様子や事業所における活動内容を発信しました。

②ホームページを月3回以上更新し、広報誌を年3回発行しました。

③町内会に加入はできていません。地域交流室を開放し、地域の方との交流、活動ができる場をつくっていく予定でしたが、コロナウイルス感染症のためできませんでした。

(2)年1回防災倉庫の点検を行い備蓄品の在庫状況の確認、紙類の入替と必要物品の補充をし、災害時の備えと福祉避難所としての受入れ態勢を整えていくことが課題です。

【 業務スケジュール 】

月	法人	施設行事	事務業務内容
4月			運転免許証等確認(業務従事者・通勤者) 退職金共済職員届提出 介護職員処遇改善計画書提出 処遇改善支援補助金申請 広報誌発行、 施設移転のための準備
5月	理事会		運転免許証確認(業務従事者) 決算
6月	評議員会		運転免許証確認(業務従事者) 資産登記変更(千葉法務局) 処遇改善・特定処遇改善一時金支給 電子開示システムによる現況報告書提出
7月		花火大会(中庭にて)	運転免許証確認(業務従事者) 社会保険被保険者報酬月額算定基礎届提出 労働保険料申告書提出 処遇改善と特定処遇改善の実績報告
8月		畑沢移転オープン	運転免許証確認(業務従事者・通勤者)
9月		敬老会 各部門で実施	運転免許証確認(業務従事者)
10月			運転免許証確認(業務従事者) 広報誌発行 防災倉庫の点検
11月			運転免許証確認(業務従事者)
12月	理事会 評議員会	クリスマス	運転免許証確認(業務従事者・通勤者) 年賀状送付 年末調整
1月			運転免許証確認(業務従事者) 広報誌発行 法定調書、支払報告書提出 処遇改善支援補助金実績報告書提出
2月		節分	運転免許証確認(業務従事者) 処遇改善・特定処遇改善計画書提出 次年度事業計画作成
3月	理事会 評議員会	ひな祭り	運転免許証確認(業務従事者) 新年度当初予算、今年度補正予算の作成

*年に2回位マンホール清掃(大久保施設のみ)
毎月、タンクのエンジンオイル漏れのチェック

9. 居宅介護相談センター波岡の家

【 目 標 】

コロナ禍においても安心して相談できる体制を整えていくとともに地域とより深い関係を構築するために介護保険以外の幅広い知識も習得、サービスを提供される側の気持ちを考慮したマネジメントをします。

【 重点 課 題 】

- I コロナ禍においても民生委員や医療機関との関係強化に重点を置き、地域包括ケアにむけた連携をします。
- II 訪問以外でのご利用者とのコミュニケーション方法を検討し、コロナ禍でもしっかりとケアマネジメントが行えるような体制を整えます。
- III 居宅ケアマネジャーとしての視点から施設をより良くする意見を提案します。

【 実 践 結 果 】

今年度は8月に施設移転があり、業務的に大きな変化はないものの移転準備やその後の処々の対応で慌ただしい状況であったため、新たなことにチャレンジしていく余裕がなかった。また、9月に新たなケアマネを加えて3名体制になったことで新規利用者の獲得など基礎作りに力を入れた1年となった。

今後は特定事業所加算の取得も視野に入れた環境整備を整えていくことを検討していきたい。

- I コロナ禍においても民生委員や医療機関との関係強化に重点を置き、地域包括ケアにむけた連携をします。
 1. 以前利用していた方の知り合いや近隣の病院からの問い合わせは増えてきている。他事業所のケアマネからの引継ぎも積極的に行った。
 2. 新規の受け入れケースは58件、そのうち64%が包括支援センター経由であった。また他事業所や直接相談も25%もあり、少しずつではあるが認知・信頼されてきていると思われる。
 3. 主治医へのケアプラン説明がなかなか進まないのが現状、入退院時の連携は概ね行えている。
 4. 昨年度同様、市からの認定調査依頼はなかったものの次年度からは自動更新が無くなるということですので市の担当者から協力依頼が来ている。
- II 訪問以外での利用者とのコミュニケーション方法を検討し、コロナ禍でもしっかりとケアマネジメントが行えるような体制を整えます。
 1. ご利用者の28%が独居、29%が高齢夫婦世帯であり、半数以上は高齢者のみの世帯となっており、介護保険以外でのサポートが必要なご利用者も増加、複合的な支援を必要とするため、介護サービスはもちろんのこと、行政サービス(障害・生保・成年後見等)や民間サービスとの連携するケースも増えてきている。
 2. 本年度はケアマネ1名体制で始まったが、5月と9月に1名ずつ増員され、最終的には平均で要介護プラン49.6件/月、予防プラン18.4件/月となった。単純に昨年度との比較は難しいものの目標には達しなかった。
 3. 事業所内でのケアマネ同士の情報共有については日誌や会議を通じて概ね行えているものの書式の標準化については今後も検討が必要である。
 4. 居宅会議は毎月開催、今年度は事例検討会が1回できなかった。次年度は事例検討会も定期的に行っていく。

5. 地域の社会資源については常に情報を収集、ケアプランの中にも組み込まれてきている。本年度も地域ケア会議を活用しての問題解決の事案はなかった。
6. 各サービス事業所の特徴のデータ化までには至っていない。
7. 木更津市ケアマネジメント研究会や包括が主催している主任ケアマネ勉強会以外での外部研修はほとんど行えなかった。

III 居宅ケアマネジャーとしての視点から施設をより良くする意見を提案します。

1. 新型コロナウイルスの基本的な感染対策は行っているものの習慣的になってしまって危機感が薄れている面もみられる。
2. 本年度は介護教室を開催することができなかった。
3. 広報紙やホームページについては意見を述べることはあったが直接関わることはなかった。
4. 他事業所の見学などで感じた良いところなどはその都度、内部への情報提供はしているものの十分行われてはいない。
5. 本年度は8月に施設移転があり、行事などもやり方が変わってきたため、他部署への協力も以前より限られたものであった。
6. 草刈り以外のことは行えなかった。普段の車内消毒は行っているものの洗車等は不十分であった。

◎請求実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	1	1	6	7	7	7	5	8	11	12	10	11	86
要支援2	6	6	13	11	11	12	12	10	11	11	10	10	123
要介護1	9	10	10	11	16	15	17	17	17	20	21	27	190
要介護2	10	10	13	13	12	19	25	18	15	17	18	22	192
要介護3	6	7	5	8	7	10	12	11	13	12	13	12	116
要介護4	5	4	4	6	4	5	6	6	6	8	9	7	70
要介護5	1	1	0	2	1	4	3	3	3	4	3	3	28
要支援	7	7	19	18	18	19	17	18	22	23	20	21	209
要介護	31	32	32	40	40	53	63	55	54	61	64	71	596
事業対象者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小計	39	40	52	59	59	73	81	74	77	85	85	93	817
令和3年度	73	78	77	77	78	77	78	77	76	61	42	41	835
令和2年度	76	70	76	71	72	83	78	74	73	74	75	70	892

※ 請求実績であり、担当件数とは異なる。また、月遅れ請求も含まれる。

◎新規受け入れ数および相談先

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
包括	2	3	0	3	4	5	3	3	3	3	3	5	37
病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
直接相談	0	0	1	0	0	9	1	0	1	0	1	2	15
その他	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
小計	3	3	2	4	5	14	4	4	4	4	4	7	58
令和3年度	1	5	0	1	2	2	2	1	2	0	1	0	17
令和2年度	4	2	1	2	3	3	1	1	1	3	2	0	22

◎利用終了者数および終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死亡	1	0	1	0	3	0	2	1	0	1	2	0	11
入所・入院	3	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	4	2	1	0	4	0	2	2	0	1	2	1	19
令和3年度	1	0	1	3	1	0	4	4	14	25	3	0	56
令和2年度	5	2	2	1	2	0	3	3	0	3	0	3	24

◎年齢別利用者数

	男性	女性	小計
50～54	0	1	1
55～59	0	1	1
60～64	0	1	1
65～69	2	0	2
70～74	4	4	8
75～79	9	11	21
80～84	11	11	20
85～89	7	16	23
90～94	6	10	16
95～99	1	1	2
合計	40	56	96

令和5年3月31日現在

◎地域別利用者数

	男性	女性	小計
大久保	14	19	33
烏田	1	0	1
八幡台	12	8	20
羽鳥野	1	0	1
畑沢	3	10	13
畑沢南	2	1	3
港南台	1	0	1
小浜	1	1	2
矢那	2	6	8
桜井	0	1	1
桜井新町	0	1	1
請西	0	2	2
笹子	1	1	2
真里谷	0	1	1
君津市	1	0	1
富津市	1	5	6
合計	40	56	96

令和5年3月31日現在

◎世帯状況

状況	人数
単身世帯	27
夫婦のみ	28
子と同居	18
夫婦と子の同居	9
子世帯と同居	7
その他	7
合計	95

令和5年3月31日現在

◎令和4年度 内部研修参加及び会議実績

	会議または研修名称	備考
令和4年4月12日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
5月23日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
6月14日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
7月日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
8月23日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
9月20日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
10月3、4、6、7日	高齢者虐待防止研修	虐待に関する研修
10月18日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
11月22日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
12月20日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
令和4年1月17日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
2月21日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認
3月21日	居宅介護支援事業所会議	前月実績・ケース確認

◎令和4年度 外部研修参加実績

	講習会名称	主催者	会場
令和4年 6月14日	木更津市ケアマネジメント研究会 「成年後見制度と意思決定支援」	木更津市ケアマネジメント研究会	WEB開催
8月2日	君津圏域四市介護支援専門員合同研修会 「養護者支援 介護家族の心理からみた 高齢者虐待の理解と支援」	四市介護支援専門員協議会	WEB開催
8月19日	主任ケアマネネットワーク勉強会 「介護におけるコロナウイルス感染症の 基本的対応」	木更津市5地域包括支援センター	木更津市市民総合 福祉会館 第1,2研修室
10月13日	木更津市ケアマネジメント研究会 「木更津市生活支援整備事業」 「コロナ禍と歯科」 「麻痺患者の心の葛藤」	木更津市ケアマネジメント研究会	WEB開催
10月19日	地域包括ケアの深化、推進のための多職種 連携研修 「地域連携とリハビリテーション」	木更津市在宅医療介護連携推進協議会	君津木更津医師会 医師会館および WEB開催
11月15日	主任ケアマネネットワーク勉強会 「障害を持つ人への支援」	木更津市5地域包括支援センター	木更津市市民総合 福祉会館 第1,2研修室
11月24日	君津木更津地区4市ケアマネジャー連絡 協議会および君津木更津地区4市地域包 括支援センター連絡協議会	君津木更津医師会	君津木更津医師会 医師会館
令和5年 1月19日～ 2月19日	令和3年度千葉県認定調査員現任研修	木更津市介護保険課	YouTube オンデマンド配信
2月14日	木更津市ケアマネジメント研究会 「法廷根拠に基づいたケアプランの作り方や 支援経過の書き方」	木更津市ケアマネジメント研究会	WEB開催
3月16日	主任ケアマネネットワーク研究会 「成年後見制度の役割、現状について」	木更津市5地域包括支援センター	木更津市市民総合 福祉会館 第1,2研修室
令和5年 1月21日	専門研修過程Ⅱ	千葉県介護支援専門員協議会	YouTube オンデマンド配信
2月27日 ～28日			TKPガーデンシティ 千葉
3月10日 ～11日			TKPガーデンシティ 千葉
3月24日 ～25日			TKPガーデンシティ 千葉

10、木更津市南部地域包括支援センター

【 目 標 】

地域(波岡・鎌足地区)の高齢者が、住み慣れた地域で、安心して尊厳ある生活を続けられるように地域包括ケアを推進していきます

【重点課題】

1. 地域包括ケアの中核機関であることを自覚し、地域支援ネットワーク構築を行います
2. 介護予防の推進に努め、高齢者の生きがいつくりに取り組みます
3. 高齢者の消費者被害や虐待等の権利侵害について、早期発見・防止します
4. 認知症カフェを通して、認知症高齢者にやさしい地域づくりをします

【実践結果】

南部地域包括支援センターは、平成19年に千葉育美会「波岡の家」に委託を受け、地域の高齢者が住み慣れた地域で、安心して過ごすことができるように日々活動してまいりました。令和4年8月の移転に伴い、活動の拠点が畑沢地区に移り、新しい場所で心機一転、職員の気持ちも引き締まりました。また、令和4年に7年目を迎えたオレンジカフェなみおかが、木更津市で第一号のチームオレンジとして認定されました。これまでのカフェはもちろん、訪問などによる見守り活動にも力を入れ、認知症に優しい地域づくりの一助になると思います。また、まちづくり協議会からの認知症についての講演依頼が多く、住民の方の関心が高いこともうかがえます。令和4年度はコロナ感染対策をしつつ、地域で集いの場や行事が再開されてきましたので、住民の方との交流の機会が日常に戻ってきたように思います。

1. 地域包括ケアの中核機関であることを自覚し、地域支援ネットワークの構築を図ります。

- ①地域の身近な相談窓口として高齢者に関する様々な相談をすべて受け止め、適切なサービスや、関係機関及び制度の利用につなげるなど、問題の解決への支援を行ってきました。各公民館での出張相談による、介護相談やキーホルダーの登録手続きなどを行いました。
- ② 地区民生委員協議会に毎月出席し、地域で起きた事例の紹介や見守りをしているケースの情報収集、共有を行いました。定例会の後に、各地区にて2回/年地域ケア会議を予定しておりましたが、1回/年の開催となりました。移転後波岡西地区にて地域ケア会議を開催し、地域交流室の活用方法について、民生委員さんをはじめ地域の関係機関、住民の方と意見交換を行いました。
- ③ 木更津市社会福祉協議会、木更津警察署、健康福祉センター、消費者生活センター、医療機関など関係機関や団体と連携し、問題解決に取り組みました。
- ④ ケアマネジャーの後方支援としては、困難事例、権利擁護などの相談に対し解決に向けて支援しました。「木更津市主任ケアマネネットワーク」にて勉強会を3回/年開催しました。会場参集での開催、事例検討を行い、居宅のケアマネジャー同士で情報共有できたこともあり、参加者からは好評でした。木更津市社会資源一覧を更新し居宅支援事業所等に配布しました。

※年間相談件数延べ 125 件

- ⑤ 地域との連携においては、まちづくり協議会や地域を考える会に委員として参加し、各部会に属して活動しました。
- ⑥ 在宅医療・介護連携協議会や各部会へ参加し、医療関係者と介護関係者との連携を深めました。ICTプロジェクトチームとしてはバイタルリンクの活用について検討していますが、実際の活用には至りませんでした。今後は多職種間の情報共有に有効活用していきたいと思えます。

2. 介護予防の推進に努め、高齢者の生きがいつくりに取り組みます。

- ① 要支援1・2の方を対象とした介護予防支援業務については、要支援認定者の介護予防プランの作成を行いました。センターでは年間1,312件のプラン作成、居宅支援事業所へは1,694件を委託しました。委託先の担当者会議は書面開催も多くありましたが、その都度、適切なプランの作成についての助言なども行いました。
- ② 令和4年度は、2名の方に訪問型C事業を実施できました。終了後1名は総合事業の通所型サービスの利用につながり、もう1名はサービスの利用には至らないものの、栄養の知識が得られたことで、日常生活に活用しています。通所型C事業については、協力事業者が見つからず実施できませんでした。一般高齢者への介護予防支援事業については、「きさらづ筋力アップ体操」の6団体と、自主体操グループが活動を継続しています。残念ながら、令和4年度で1グループが終了となりましたが、各グループに月1回は主に看護師が参加し、状況の確認をしました。年1回の体力測定、PTによる指導なども行いました。
- ③ 地域の集いの場においては、健康相談、健康講和、体操等を実施し、高齢者の介護予防の推進に努めました。

3. 高齢者の消費者被害や虐待等の権利侵害について、早期発見・未然に防止します。

- ① 令和4年度は知人、ケアマネジャーより消費者被害についての情報提供が3件ありました。認知症の方が通販で買い物してしまった事例では、クーリングオフが利かない商品の支払いをするため、ケアマネと一緒に金融機関まで同行しました。情報提供を受けたら、速やかに地区の民生委員さんにも情報共有し、注意喚起をお願いしました。社会福祉士主催に
- ② 成年後見制度・日常生活自立支援事業利用等の情報提供、活用について紹介を行いました。相談については4件あり、内容としては、軽度の認知症の方が通販での買い物をするが、本人が欲しくて購入しているので止められない事例で、日常生活自立支援事業に相談しています。また、身寄りが無い、頼れる親族も近くにいない方が将来に対して不安を感じているため、任意後見制度を紹介し相談につなげました。
- ③ 虐待防止の相談・通報受付・実態把握については、家族やケアマネジャー、関係機関等からの虐待(疑いを含む)相談が9件あり、受付・実態把握を行いました。関係機関と連携し、速やかに分離をした事例は2件でした。その他、介護者の負担を軽減するために、介護サービスを増やし、関係者で見守りをする事で、自宅での生活が継続できるように支援しました。分離したものの、残された息子が自宅で家事を起こし、結局家に住めなくなった事例もありました。
高齢者虐待防止ネットワークの立ち上げに向け、高齢者の虐待防止や早期発見、適切な支援を行う為の体制づくりを市と共に行いました。
- ④ 地域住民向けの講習などは開催できませんでしたが、社会福祉士として法人の内部研修において講師を行うことで、専門職としての質の向上となる良い機会となりました。

4. 認知症カフェを通して、認知症高齢者にやさしい地域づくりをします。

- ① 認知症サポーター養成講座の開催は、民生委員の改選時期でもあり、新任の方への実施や公民館の高齢者学級にて1回の開催をしました。サポーター養成講座まではいかないまでも、認知症についての基礎的なことが学びたいという依頼が多く、住民の方の関心の高さを実感しました。認知症についての住民への周知としては、木更津市のオーガニックシティフェスティバルと認知症メモリーウォーク、認知症カフェフェスティバルを合同で開催しました。木更津港周辺を横断幕を持って歩き、認知症カフェのポスターの展示、高齢者疑似体験のブースを出展しました。子どもから大人まで幅広い世代へのPRとなりました。
- ② 波岡公民館での認知症カフェについては、8、9月とお休みはありましたが、通常通りの開催ができました。飲食はまだできませんが、参加者の皆さんが笑顔で話をしている様子を見て、やはり直接顔を合わせて話をすることの大事さを実感しました。また、木更津市で初めてのチームオレンジとして認定をされました。今後も地域の認知症の方やその家族の相談、話し相手、見守りなどの活動を継続していきます。

- ③ 認知症地域支援推進員の活動としては、キャラバンメイトフォローアップ研修、認知症サポーターフォローアップ研修、認知症家族交流会を開催しました。認知症高齢者の家族交流会は恒例となりました認知症専門医を迎えての交流会、また認知症対応型デイやグループホームの職員を招いての交流会も好評でした。
- ④ 認知症初期集中支援チームについては、ZOOMを活用しオンライン会議の開催でした。新規ケースとして実際にチームとして介入するケースは殆どありませんでした。マニュアルや帳票の見直しを行いました。

5. その他

- ① 職員の地域包括支援センター業務に必要な知識、技術の習得に努めました。オンライン研修での開催が主でしたが、参集型も少しずつ再開しています。(別紙2参照)
- ② 高齢者見守りキーホルダー事業については、新規の方はもちろん、更新の方についても引き続き老人会や出張相談などで受け付けを行いました。感染防止のため電話での更新も行いました。3月末での登録者数 857名です。
- ③ 法人のホームページを最低月1回更新、広報紙の「南部だより」を年2回発行し、日々の活動報告をしています。
- ④ 公民館やまちづくり協議会などからの要望に合わせた、講演会を行いました。また、大規模イベントはまだ中止となっていますが、サロンや老人会などに介護予防体操やミニ講座など行いました。(別紙3参照)
- ⑤ 毎月の木更津市地域包括支援センター連絡会や管理職会議において、市関係職員との連携に努めました。
- ⑥ 看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員、認知症地域推進員の専門職会議を定期的に行い、情報交換や事例検討などを行いました。
- ⑦ 千葉県地域包括・在宅介護支援センター協会の研修員として、研修の企画・運営に参加しました。

1. 相 談

○相談件数 (単位:延件数)

①来所	89	
②電話	790	
③訪問	274	
④その他	97	実件数
合 計	1250	898

○内容、相談者別件数 (単位:延べ件数)

内容 相談者	①介護方法、又は生活相談(全般)	②介護保険制度利用援助	③福祉用具・住宅改修	④福祉サービス(全般)	⑤介護予防に関する事	⑥虐待関係(疑含む)	⑦成年後見制度利用支援	⑧消費者被害	⑨介護予防ケアマネジメント	⑩その他	合 計
	本人	18	87	26	4	2	1	1	0	0	
家族	45	233	41	8	5	1	1	0	0	159	493
介護支援専門員	2	17	1	1	0	6	2	2	49	45	125
介護サービス事業所職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
民生委員	3	7	1	1	0	0	0	0	0	20	32
近隣・知人	3	3	0	0	0	0	1	1	0	25	33
関係機関	11	23	5	1	1	2	1	0	0	93	137
その他(匿名を含む)*	2	4	1	1	0	1	0	0	0	4	13
合 計	84	374	75	16	8	11	6	3	49	649	1275

2. 権利擁護業務

○内容、件数

種 別		新 規		継 続	
①虐待(疑含む)	身体的虐待	0	(虐待合計) 4	0	(虐待合計) 5
	経済的虐待	1		1	
	精神的虐待	3		2	
	性的虐待	0		0	
	介護放棄	0		2	
①成年後見制度利用		3		1	
② 消費者被害		1		0	
③ 困難事例		13		26	
④ その他		0		0	
合 計		21		32	

3 会議、研修会の開催、又は参加、及びPR活動等について

《会議》

- ・民生委員定例会:波岡東(12回)波岡西(12回)鎌足(12回)
- ・木更津市地域包括連絡会(12回)・管理職会議(12回)・木更津市地域包括運営協議会(2回)・
- ・在宅医療介護連携協議会(3回)・在宅医療介護・認知症施策部会会議(4回)・生活支援部会(4回)
- ・在宅医療・介護連携部会(5回)・ICT部会会議(1回)
- ・初期集中支援チーム員会議(24回)
- ・自立支援に資する個別地域ケア会議(2回)・君津圏域認知症協議会 zoom(1回)
- ・鎌足足プラン作成WG会議(2回)・わかば会会員会議(1回)・さつき会総会(1回)
- ・波岡東地区地域を考える会、部会長会議(6回)・波岡公民館地区まちづくり協議会(4回)
- ・地域包括専門職会議:社会福祉士会議(12回),看護職(12回)主任 CM 会議(12回)推進員会議(12回)
- ・地域ケア会議(4回)
- ・予防委託担当部会会議参加:68回・困難事例カンファレンスへの参加:4回
- ・地域密着型運営会議:矢那梅の香園(4回)・ハートケア八幡台(1回)

《その他》

4 介護予防支援業務(予防給付関係)

○介護予防ケアマネジメント事業

	新規		継続		合計
	要支援1	要支援2	要支援1	要支援2	
直接ケアプラン作成件数	要支援1	46	要支援1	680	726
	要支援2	14	要支援2	572	586
	チェックリスト	0	チェックリスト	0	0
委託ケアプラン作成件数	要支援1	57	要支援1	688	745
	要支援2	43	要支援2	865	908
	チェックリスト	2	チェックリスト	39	41
合計		162		2844	3006

5 訪問状況

(単位:延回数)

実態把握訪問調査回数	新規	継続	合計
	310	2005	2315

○当月契約居宅事業所(新規)報告 ※新規契約した事業所がない場合、記載不要

契約日	事業所法人名称	法人所在地	事業所名	事業所所在地
R4.7.1	社会福祉法人志真会	君津市貞本 510	居宅介護支援事業所 夢の郷	君津市杉谷 3-1
R4.11.1	eminAru 合同会社	木更津市ほたる野 4-26-7	あいりすケアマネセンター	木更津市ほたる野 4-26-7

別紙1 令和4年度認知症サポーター養成研修 実績

回数	実施日	受講団体・グループ名	受講者数
1	令和4年10月21日	畑沢健康カレッジ	23
2	令和5年2月12日	波岡西地区民児協 新任民生委員	4
3	令和5年2月14日	鎌足地区民児協 民生委員	8
4	令和5年3月4日	波岡東地区民児協 民生委員	9
令和4年度 終了者数			44

・別紙2 令和4年度研修参加実績

回数	日時	研修内容	場所	参加者
1	令和4年6月14日	成年後見制度と意思決定支援 zoom		東間
2	令和4年7月7日	症状と緊急性	中部包括	平野・小川
3	令和4年8月5日	介護予防従事者研修 zoom		小川
4	令和4年8月19日	主任ケアマネネットワーク勉強会 zoom		東間
5	令和4年8月27日	災害時連携・協働セミナー	木更津市民会館	東間
6	令和4年 9月13, 14日	千葉県地域包括支援センター初任者研修	ホテルポートプラザ千葉	東間(委員)
7	令和4年10月13日	木更津市ケアマネ研究会 zoom		東間
8	令和4年10月19日	地域連携とリハビリテーション zoom		東間
9	令和4年10月19日	権利擁護勉強会	木更津市役所	平野・瀬在・ 嶋崎
10	令和4年11月15日	主任ケアマネネットワーク勉強会	福祉会館	東間
11	令和4年11月24日	君津木更津地区4市ケアマネ・地域包括連絡協議会 zoom		東間
12	令和4年11月25日	千葉県地域包括支援センター現任研修	ホテルポートプラザ千葉	嶋崎・東間
13	令和4年11月27日	波岡西地区まち協勉強会 防災講座	畑沢公民館	東間
14	令和4年 12月5, 13, 19日	千葉県高齢者虐待現任研修 zoom		瀬在
15	令和5年1月24日	チームオレンジコーディネーター研修 zoom		嶋崎
16	令和5年12月22日	ゲートキーパー研修	木更津市役所	平野
17	令和5年2月7日	千葉県認知症策推進セミナー	千葉市生涯学習センター	平野
18	令和5年2月7日	地域緩和ケア連携会議	君津中央病院	東間
19	令和5年2月18日	千葉県介護支援専門員協議会 zoom		東間
20	令和5年2月27日	若年性認知症研修会 zoom		東間
21	令和5年3月7日	千葉県高齢者虐待防止対策研修(専門研修) zoom		東間
22	令和5年3月7日	認知症疾患医療センター zoom		東間
23	令和5年3月16日	主任ケアマネネットワーク勉強会	福祉会館	東間
23	令和4年3月11日	千葉県認知症ウーディネーター・地域支援推進員活動報告会 zoom		嶋崎
24	令和4年3月14日	チームオレンジ報告会 zoom		嶋崎

別紙 3

令和4年度 地域活動

活動名	会場	活動内容	開催日	包括で対応した 実人数/年間 延べ人数
オレンジカフェ	波岡公民館	認知症の本人・家族、地域住民や関係者の集い	毎月第4火曜日 13:00～15:00 (包括 毎回)	200名/282名
鎌足さくら体操	鎌足公民館	きさらづ筋力アップ体操 体力測定	毎週火 (包括 12回/年)	23名/276名
ドリーム八幡台	八幡台公民館	きさらづ筋力アップ体操 体力測定	毎週金 (包括 12回/年)	5名/60名
さわやか体操	八幡台公民館	きさらづ筋力アップ体操 体力測定	毎週土 (包括 12回/年)	8名/88名
大久保きさらづ体操	波岡公民館	きさらづ筋力アップ体操 セラバンド体操 体力測定	毎週水 (包括 12回/年)	16名/16名
畑沢わいわい体操	畑沢公民館	きさらづ筋力アップ体操 セラバンド体操 口 腔体操 認知症予防体操 体力測定	毎週火 (包括 12回/年)	20名/240名
畑沢うきうき体操	畑沢公民館	きさらづ筋力アップ体操 セラバンド体操 口 腔体操 認知症予防体操 体力測定	毎週金 (包括 12回/年)	7名/84名
八幡台イケイケ体操	八幡台公民館	きさらづ筋力アップ体操 セラバンド体操 口 腔体操 認知症予防体操 体力測定	毎週水 (包括 12回/年)	18名/216名
さつき会ふれあいサロン	畑沢公民館	健康相談 血圧測定 健康講話 体 操	年3回 (包括 3回/年)	47名/143名
わかば会茶話会	八幡台公民館	健康相談 血圧測定 健康講話	年10回 (包括 10回/年)	45名/540名
わかば会ふれあいサロン	八幡台公民館	健康相談 血圧測定 健康講話	年1回 (包括 1回/年)	中止
白寿会	八幡台公民館	きさぽん体操 キーホルダー受付	年12回 (包括 12回/年)	40名/480名
小浜長寿会	小浜集会所	健康体操 健康・介護相談	年12回 (包括 9回/年)	20名/240名
菜の花学級	波岡公民館	リハビリ棒で健康体操	年11回 (包括 1回/年)	12名/12名
かえで学級	八幡台公民館	健康講和	年11回 (包括1回/年)	10名/10名
鎌足出張相談	鎌足公民館	健康・介護相談・キーホルダー受付	年12回 (包括 12回/年)	21名/21名
畑沢出張相談	畑沢公民館	健康・介護相談・キーホルダー受付	年12回 (包括 12回/年)	100名/100名
八幡台出張相談	八幡台公民館・ 移動販売	健康・介護相談・キーホルダー受付	年12回 (包括 12回/年)	28名/28名
鎌足民児協	鎌足公民館	民生委員の関わった相談内容の報告	毎月第2火曜 (包括 12回/年)	8名/88名
波岡東民児協	波岡公民館	民生委員の関わった相談内容の報告	毎月第1土曜 (包括 12回/年)	25名/300名
波岡西民児協	畑沢公民館	民生委員の関わった相談内容の報告	毎月第1土曜 (包括 12回/年)	21名/252名
包括で対応した人数の合計				447名 /3333名

令和4年度介護予防講演会

No	日付	参加人数	場所	サークル名等	内容
	6月14日	26名	波岡公民館	元気会・おしゃべりサロン	フレイル予防と体操
	6月23日	11名	八幡台公民館	八幡台まちづくり協議会	熱中症について
	7月12日	21名	鎌足公民館	鎌足まちづくり協議会	認知症について
	10月14日	10名	八幡台公民館	かえで学級	認知症について
	10月25日	20名	八幡台公民館	八幡台まちづくり協議会	認知症について
	11月15日	11名	八幡台公民館	八幡台まちづくり協議会	認知症について
	11月8日	29名	畑沢公民館	おやじ専科	介護保険施設とその他の施設
	1月21日	11名	浄蓮寺	烏田シニアクラブ	ロコモチェック
	1月17日	23名	畑沢公民館	おやじ専科	ロコモチェック

社会福祉法人 千葉育美会
花の里

令和4年度 事業報告書



特別養護老人ホーム	花の里
花の里短期入所生活介護事業所	花の里
デイサービスセンター	花の里
居宅介護相談センター	花の里
在宅介護支援センター	花の里

目 次

令和4年度事業概要	…	57
1. 理念と基本方針	…	58
2. 組織図	…	59
3. 特別養護老人ホーム	…	60
4. 介護(予防)短期入所生活介護事業所	…	61
【実績 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護事業所】	…	62
1.入居者状況	…	62
2.行事・外出等の状況	…	64
3.健康管理	…	66
4.家族交流の状況	…	68
5.ショートステイの利用状況	…	68
6.職員研修	…	70
7.実習生受入	…	70
8.職員状況	…	71
5. 通所介護(通所介護型サービス)部門	…	72
6. 看護部門	…	75
7. 栄養部門	…	77
8. 総務部門	…	79
9. 居宅介護支援事業所部門	…	80
10. 在宅介護支援事業部門	…	81

令和4年度事業概要

令和3年度は、年度当初から、収まらない新型コロナウイルスで当施設はクラスターとなっしまい、各事業所の受入れを約1か月間停止いたしました。各事業所再開しても、直ぐに稼働率に反映することは、難しく、合わせて、退職者等人員的な要因をあり、当年度は昨年度より稼働状況としては、下回ることとなりました。クラスター発生後は、感染対応にこれまで以上に、意識して対応しましたが、感染対策を講じつつ、業務を行なうことは職員1人1人をはじめ、介護現場のみならず、事務所や他部署にも負担が増え、日々の業務を何とか維持することで、なかなか改善の一手を打つことができない年度でありました。

職員不足が続いておりますが、特に施設内でのリーダー的存在な職員や重要職を担う職員の退職も重なり、年度後半は、人員不足による、ディサービスの営業日を減らして、応援体制をとりました。入居されている方のサービスの質の低下を防ぐべく、施設職員一同協力をしてくれました。

特別介護老人ホームでは、前述のとおり、クラスターの影響が年度を通じて受けました。稼働率は前年比マイナス6.9%の87.7%となりました。中堅職員の離職、職員不足による業務改善も行ないましたが、職員の平均年齢も上昇傾向にあり、大幅な業務改善には至りませんでした。看護職員の応援やディサービスとの連携など、部門を超えての協力体制をしくことで、現状を維持しています。職員確保には、改善策が必要であり、職員配置の見直しや働き方、外国人人材の活用も次年度視野に入れることを含め、業務見直し、間接業務等の省略化をはかります。

ショートステイでは、前年度対比マイナス17.12%の72.95%の稼働でした。感染対策を講じつつ、クラスター後には、受入れには更に慎重になりました。新規相談などのニーズはあるので、次年度は稼働率の改善を目指します。

ディサービスでは、年度後半、特養応援体制を敷いたことで、週2日の営業を休止しました。曜日振替のご相談をさせていただき、ご協力をいただける方には、別の曜日でのサービス提供をいたしました。休止の影響は大きく、平均利用者数は、前年度対比マイナス延べ人数711名となりました。次年度は、これまでの営業日再開を目指して、ディサービスでの人員配置及び業務の見直しを図りつつ、ディサービスでの人員配置、応募を検討します。

居宅介護相談センター及び在宅介護相談センターでは、近隣でもコロナウイルスの感染があり、活動の自粛と再開を繰り返す年度でありました。コロナの影響で利用者は在宅に籠る生活となり、認知症の進行やADLの低下を予防するための支援に苦慮しました。また、事業所内職員の定年退職もありましたが後任者の採用をすることができ、引継ぎをすることができました。

当施設では、建物老朽化がすすみ、大規模修繕及び移転を考える時期となっております。しかしながら地域の状況を鑑みると、総人口の減少により、高齢者人口及び働き世代の減少もあり、慎重に進める必要があると考えます。また、コロナでここ数年地域との関わりも希薄となっております。外国人人材の活用や働き方、業務の見直し、地域との関係性を踏まえ、対応する必要があります。合わせて、施設単位での単年度収支を黒字化することが、次年度の課題であると考えます。

1. 理念と基本方針

【 法人理念 】

『 利用者の尊厳を守り、その人らしく
笑顔で生活できることを支援します 』

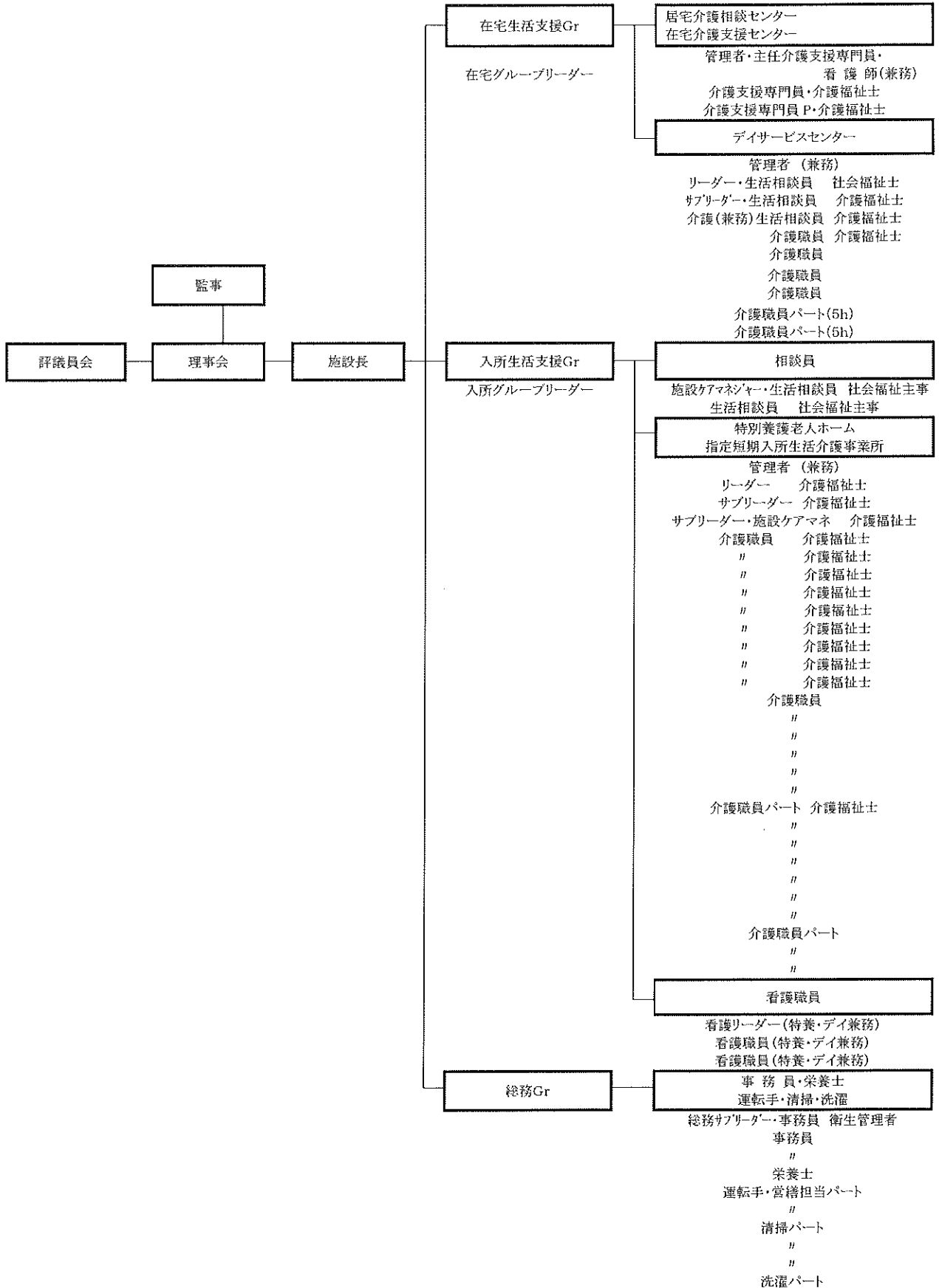
【 基本方針 】

- 利用者が居心地良く過ごせる場所であるよう、利用者目線でのケアを心がけます。
- 本人・家族の思いや生活習慣を大切にした支援を心がけます。
- 地域を中心として、本人・家族が身近で安心して相談できる相談窓口であることを心がけます。
- 他職種と連携し、施設全体で利用者・家族・地域への貢献に努めます。
- グループ間交流の活用や、職員教育の充実を図り、職員の資質・知識・技術の向上に取り組みます。

2. 組織図

社会福祉法人 千葉育美会 花の里

令和5年3月31日 改訂



3. 特別養護老人ホーム

【 目 標 】

- その人らしく、居心地良く過ごせる場所であるよう利用者目線でのケアを提供します。
- 稼働率97%を目標とします。

【 重点課題 】

1. 利用者・家族のニーズと「その人らしさ」を大切にケアを提供します。
2. 各係の活動をより充実させ、その情報を活用し個別ケアを推進します。
3. 新人教育をはじめ、より効果的な職員教育を行うことで、利用者目線でのケアを提供できる職員の質を確保します。
4. 退所から入所までの空床期間を短縮し、稼働率目標を達成します。
5. 感染症について予防とまん延防止に努めます。

【 実践結果 】

1. 利用者・家族のニーズに加え、性格・習慣・生活歴等に注目することで「その人らしさ」を尊重したケアを提供できるよう努めました。
今年度も新型コロナウイルスの影響で、面会が出来ない状況が続きました。利用者、家族とも不安や心配の日々であったと思われます。このような状況であったからこそ、普段以上に日頃の様子の変化や変化があった際の早めの連絡を意識し、食事摂取量が低下されている方に関しては、ご本人が食べれそうなもの等の補食を持って来て頂いたり、少しでも家族の心配を軽減できるよう努めました。特に看取り期の方については、家族との連絡を密にし、面会に関しても、感染対策をとりつつ、出来る限りお会いいただけるよう取り組み、利用者・家族のニーズに沿った看取りとなるよう努めました。
2. 各係が専門的な視点で個々のご利用者の現状をとらえ、その情報を元に適したケアを提供できるよう取り組みました。
日々の業務の中で、排泄・食事・入浴を中心にそれぞれの係員が自覚をもち、日々変化のある利用者の状況に合わせた提案がリアルタイムにできるよう取り組みました。
3. 業務改善に取り組むことで業務負担の軽減を図り、ケアの質の確保に努めました。
今年度も勉強会やアンケートなどを活用することで、今ある業務の課題について注目し、業務改善に取り組みました。業務の時間帯及び職員配置を調整することで業務負担が軽減出来、時間内での業務引き継ぎが出来るように改善出来てきています。今後も継続して取り組み、働きやすさを確保することで、ケアの質の維持または向上を目指します。
4. 新規入所受入を中止。
新型コロナウイルスによるクラスター発生や職員の離職者が相次いだ為、新規入所受入を中止し、稼働率目標に向けての動きが取れませんでした。
5. 感染症の予防と蔓延防止に努めました。
感染症対策委員会を中心に対策を検討し、全職員に周知徹底を行い、予防と蔓延防止に努めましたが、新型コロナウイルスによるクラスターが発生してしまいました。その後は感染症認定看護師の指導のもと適切な対策を学び、全職員で予防と蔓延防止に努めています。

4. 介護(予防)短期入所生活介護

【 目 標 】

- 利用者や家族・介護者の要望に沿ったサービスの提供を継続的に行うことで、在宅介護支援及び地域貢献に取り組みます。
- 稼働率85%を目標とします。

【 重点課題 】

1. 住み慣れた地域やご自宅で長く生活ができるよう、在宅生活を意識したサービス提供に努めます。
2. 在宅生活の状況について現場職員としっかり情報共有し、それぞれのニーズに沿ったケアが提供できるよう努めます。
3. 感染症予防とまん延防止に取り組みます。
4. 災害時避難者や緊急ショートステイの受け入れ施設としての機能を果たします。

【 実践結果 】

1. 住み慣れた地域やご自宅で長く生活ができるよう、在宅生活を意識したサービス提供に努めました。
新型コロナウイルスクラスターの発生により、ご利用者、ご家族共に大変ご迷惑とご心配をお掛けしてしまいました。居室環境はできるだけ在宅の環境と同じような環境となるように対応し在宅生活を意識したサービス提供に努めました。実際はそれぞれのお部屋でお過ごしいただく時間が増え利用中の活動量は明らかに低下してしまいましたが、コロナウイルス発生状況に合わせた対応の緩和を実施し、少しずつですが日常を取り戻しつつあります。今後も、密を避け感染を予防しつつ活動的にお過ごしいただく方法を模索し、サービスの質の改善に向け取り組んでまいります。
2. 現場の介護職員が介護者(家族)の声や自宅環境を知ることで、より在宅を意識したケアにつながるよう取り組みました。
相談員から介護職員へ介護者(家族)の思いや置かれている環境、雰囲気等、可能な限りで情報提供し、在宅へつながるサービス提供を意識して取り組みました。在宅生活を踏まえた介護の質向上への取り組みに関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、予定していた研修や勉強会、系のミーティング等も開けない状況であった為実施できませんでした。
3. ご利用前のご本人・同居ご家族の体調確認や利用中の検温等にご協力いただき感染症予防に取り組みました。
ショートステイのご利用に際して、ご家族も含めた体調確認、発熱時のPCR検査等、様々な感染防止対策にご協力をいただき、職員も消毒の徹底や行動の自主規制など感染予防に努めました。しかし、特養職員の新型コロナウイルス感染がきっかけと思われるクラスターが発生してしまい、ショートステイご利用者へも感染が広まってしまうました。現在、世間ではコロナウイルスに対する意識も薄れてきている中ですが、経験を活かし今後も皆様にご協力をいただきながら、感染対策を徹底し、ご利用者それぞれの在宅生活を踏まえた支援ができるよう努めてまいります。
4. 緊急時の受け入れ等ケースに合わせた臨機応変な対応ができるよう取り組みました。
今年度は、緊急ショートステイの要請はありませんでしたが、平時より準備し、いつでも対応できるよう準備してまいります。

実績(特別養護老人ホーム・短期入所生活介護)

1. 入居者の状況

- (1) 年齢・性別状況
- (2) 要介護度の状態区分
- (3) 在籍期間
- (4) 月別延人数・入居稼働率
- (5) 入退所者の状況

(1) 年齢・性別の状況

令和4年度末時点での、入居者の年齢・性別状況は「表-1」の通りです。
90歳以上の方が全体の63%を占めている状況となっています。男性の平均年齢は89.1歳、女性の平均年齢は91.0歳となっています。全体の平均年齢は90.7歳となっています。

年齢・性別の状況

「表-1」

年齢	男性	女性	合計	構成比
60歳未満				
60歳～64歳				
65歳～69歳				
70歳～74歳				
75歳～79歳		1	1	2%
80歳～84歳	2	4	6	12%
85歳～89歳	1	10	11	23%
90歳～94歳	2	16	18	37%
95歳～99歳	2	6	8	16%
100歳以上		5	5	10%
合計	7	42	49	100%
平均年齢	89.1	91.0	90.7	

(2) 要介護度の状況

令和4年度末時点の入所者の要介護度の状態区分は、「表-2」の通りです。
要介護度3及び4の方が全体の91.8%を占めています。平均要介護度は3.71となっています。

要介護度の状態区分

「表-2」

介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護1				
要介護2				
要介護3	4	14	18	36.7%
要介護4	3	24	27	55.1%
要介護5	0	4	4	8.2%
合計	7	42	49	100%
平均要介護度	3.43	3.76	3.71	

(3) 在籍期間

令和4年度末時点での入居者の在籍期間は「表-3」となります。5年以上入所されている方は全体の14%となっています。また、入所されて2年未満の方は27%となっております。全体としての平均在籍期間は約3年3ヵ月となっており、最も入所が長い方は11年と4ヶ月の在籍となっております。

在籍期間

「表-3」

在籍期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	4	10	14	29%
1年以上～2年未満	0	13	13	27%
2年以上～3年未満	1	3	4	8%
3年以上～4年未満	1	5	6	12%
4年以上～5年未満	0	4	4	8%
5年以上～10年未満	1	6	7	14%
10年以上	0	1	1	2%
合計	7	42	49	100%
一人当たりの平均在籍期間	約2年 5ヵ月	約3年 5ヵ月	約3年 3ヵ月	

(4) 入所稼働率

月別実人数、月別延人数及び入所稼働率は、「表-4」となります。月平均の利用者数は52.3人でした。平均入所稼働率は87.7%でした。

月別延日数・入居稼働率

「表-4」

月	入所者実数(月末)	入所者延人数	稼働率
4月	56	1,546	88.9%
5月	52	1,482	82.4%
6月	52	1,520	86.2%
7月	49	1,522	84.7%
8月	52	1,398	77.8%
9月	52	1,474	84.7%
10月	54	1,636	91.0%
11月	56	1,672	96.1%
12月	54	1,654	92.0%
1月	53	1,646	91.6%
2月	49	1,431	88.4%
3月	49	1,584	88.4%
平均	52.3人	1,547人	87.7%

(5)入退所の内訳

令和4年度の入退所の内訳は、「表-5」の通りです。今年度は、23名の退所があり、17名の新規入所の受け入れを行いました。入所者は在宅生活が困難となり入所された方が13名、老健・他施設より入所された方が4名、看取らせていただいた方は20名、入院中に亡くなられた方が2名、医療が必要となり施設を退所された方が3名でした。

入退所の内訳

「表-5」

月	入所 実人員	入所内訳		退所 実人員	退所内訳		
		病院又 は施設	在宅		長期入院	死亡	その他
4月	2		2	2	1	1	
5月	1		1	5		3	2
6月	1		1	1		1	
7月	1		1	3		3	
8月	3	1	2	3		2	1
9月	3		3	0		0	
10月	2	1	1	0		0	
11月	3	1	2	1		1	
12月	1	1		3	1	2	
1月	0			1		1	
2月	0			4		4	
3月	0			0			
合計	17	4	13	23	2	18	3

2. 行事・外出等の状況

- (1)行事
- (2)レクリエーション活動の状況
- (3)外出
- (4)ボランティア受け入れ状況
- (5)地域行事参加・交流
- (6)預かり金開示

(1)行事

月々の行事については、季節感を意識しつつ昔を思い出していただけるような行事となるよう取り組みましたが、今年度も新型コロナウイルスの影響もあり、密にならないよう規模を縮小して実施するなど、感染防止対策をとりつつ実施となりました。

令和4年度実施行事

「表-6」

月	行事名	月	行事名
4月	お花見	10月	ハロウィン
5月	端午の節句(菖蒲湯)	11月	紅葉見物(中止)
6月	紫陽花見物(中止)	12月	もちつき
7月	七夕	1月	初詣、正月
8月	花火大会(中止) 迎え火・送り火	2月	節分
9月	敬老会	3月	ひな祭り

(2)レクリエーション活動の状況

今年度もレクリエーションにつきましては、感染防止策をとりつつの活動となりました。また、換気や消毒、体調不良者への感染対応等で職員の作業量が増加し、レクリエーション活動の時間を確保することが非常に厳しくなっています。レクリエーション活動はご利用者の生活に欠かせないものであるため、業務の見直しや短時間でのレクリエーションの実施方法等、検討実施を行いました。

クラブ・レクリエーション活動

「表-7」

活動種類	実施回数	参加延人数	内容
華道クラブ	6	30	季節毎のお花を生け、作品を施設内に展示しました。
園芸クラブ	常時	多数	中庭の畑で玉ねぎ、ジャガイモ、大根、里芋、そらまめ、菜花、ミョウガ、大葉などを作りました。
レクリエーション	常時	多数	リハビリ体操、頭の体操、施設内の季節毎の飾りつけ、誕生日会等行いました。

(3)外出

普段であれば、お花見や紅葉狩り、初詣等、入居されている皆様に季節を感じていただけるような外出や、入居前の生活を維持する一環として、あるいは気分転換を兼ねて、施設周辺の散歩や買い物、地域行事の見物、さらにはお墓参りや、一時帰宅など、それぞれのご希望に沿った個別外出に重点を置き外出を計画するところですが、新型コロナウイルスの影響もあり、外出は中止とさせていただきました。

「表-8」

月	外出先	目的	利用者数
4月	中止		
5月	中止		
6月	中止		
7月	中止		
8月	中止		
9月	中止		
10月	中止		
11月	中止		
12月	中止		
1月	中止		
2月	中止		
3月	中止		

(4)ボランティア受け入れ状況

新型コロナウイルスの影響でボランティアの受け入れはありませんでした。

ボランティア活動状況

「表-9」

団体名 (活動内容)	延べ人数
なし	0

(5) 地域行事参加・交流

地域行事への参加としては、例年、地元祭礼への参加などを中心に個々のニーズに沿った外出等に取り組んでおりましたが、新型コロナウイルスの影響で地域行事自体が中止となり、参加はありませんでした。

地域行事への参加

「表-10」

日程	内容
7月	大原祭礼（中止）
7月	真浦地区祭礼（中止）
9月	吉保の祭り（中止）
10月	地区祭礼（中止）
2月	抱湖園桜まつり（中止）

(6) 預かり金の開示

入所者及び家族からの委任により管理を行っている入所者預かり金の出納状況については、ご希望の入所者以外に、家族（身元引受人）に開示・説明を行いました。家族には、3ヵ月分の出納状況を示した資料を事前に送付させていただき、ご面会の際に台帳の開示・説明をおこない、承認印を受領しました。定期開示は、「表-11」の日程で行いました。また、定期以外にも、預かり金状況の開示・説明を求められた場合には、随時開示に応じています。

預かり金定期開示の状況

「表-11」

預かり金管理期間	定期開示
令和4年1月～3月分	令和4年4月
令和4年4月～6月分	令和4年7月
令和4年7月～8月分	令和4年9月
令和4年9月～12月分	令和5年1月

3. 健康管理

- (1) 往診等の状況
- (2) 医療機関への通院状況
- (3) 病院別・入院状況
- (4) 機能維持訓練の状況
- (5) 事故状況

入所者の健康管理については、基本的には嘱託医や歯科医の往診による診療を行い、その他必要に応じて、亀田総合病院、安房地域医療センター等の医療機関に受診しました。また、夜間帯に利用者様に状態変化がみられた際は、夜勤者から携帯当番となっている看護職員へ連絡をし、対応について指示を受けました。状態によっては看護職員が出勤し、嘱託医と連携しながら対応にあたりました。

(1) 往診等の状況

令和4年度の往診等の状況は、嘱託医の松永醫院（千倉）松永平太医師が毎週木曜日の午後に往診を行いました。歯科治療につきましては、亀田ファミリークリニック歯科センターより毎月第1、第3木曜日の午前中に歯科医師が往診し、口腔ケアや虫歯の治療、義歯の作成および調整等を行いました（新型コロナウイルスの感染状況に応じて対応しています）。

(2) 医療機関への通院状況

令和4年度の医療機関の通院状況は、「表-12」の通りです。施設内の医療対応が限界を越えた方に対しては、嘱託医の指示により他医療機関への通院・入院援助を行いました。

「表-12」

	亀田クリニック 亀田総合病院	安房 地域医療センター	松永醫院	その他	合計
合計	6	8	1	0	15
割合	40%	53%	7%	0%	100%

(3) 病院別・入院状況

入院に関しては、「表-13」の通りです。入院理由に関しては、心不全が1件大腿部転子部骨折が1件、大腿部頸部骨折が1件、胆管炎が2件、脳梗塞が1件、腸腰筋血腫が1件、コロナウイルス陽性が9件、尿路感染症が3

件腎盂腎炎が1件、鼠経ヘルニアが1件、褥瘡感染が1件で、精査入院が、1件で腎不全が1件、

「表-13」

入院状況	人数	延日数	割合
亀田総合病院	8	165	45%
赤門整形外科内科	0	0	0%
医療センター	5	54	15%
富山国保	6	65	18%
鴨川国保	3	66	18%
東条病院	1	15	4%
合計	23	365	100%

(4) 機能維持訓練の状況

例年ですと、月に4回、亀田病院から理学療法士又は作業療法士が来所し、機能維持訓練を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの流行で実施できませんでした。

(5) 施設内事故状況

「表-15」

	転倒・転落	誤薬	表皮剥離	その他	計
4月	7	2	0	1	10
5月	8	0	4	5	17
6月	4	0	0	4	8
7月	10	1	2	0	13
8月	10	1	1	2	14
9月	7	0	2	0	9
10月	4	1	3	1	9
11月	6	0	1	0	7
12月	10	0	0	0	10
1月	7	0	2	0	9
2月	5	0	1	1	7
3月	6	1	0	2	9
計	84	6	16	16	122

- ① 重大事故件数(事故後病院受診したもの)
3件

② 事故報告結果から

事故の内容としては転倒が多くを占め、次いで表皮剥離、誤薬となっています。誤薬に関しては、定期的な予防の声掛けをしていくことで与薬ルールを徹底します。表皮剥離に関しては、引き続き、移乗介助時に四肢の位置確認を確実に行うよう呼びかけ、防止します。転倒については、認知症の為に自身のお身体の状態がわからず転倒に至ってしまうケースが多くみられています。居室でベッドから起きてこられた際の転倒事故などは、目も行き届かず防ぐことは大変難しいのですが、一つ一つの事故をしっかりと振り返り、丁寧に事故分析することで同じ事故を再度起こすことがないように努めてまいります。また、事故のみに着目するのではなく、視野を広く持ち、利用者一人一人の生活全般に目を向け、それぞれに適した防止策を講じることができるよう取り組んでまいります。

新型コロナウイルス対策もあり、特養入居者とショートステイ利用者で居住スペースを分けさせていただき対応しています。常時近くでの見守りが必要な方への対応等で非常に難しい場面もみられていますが、感染予防と事故防止が両立できるよう工夫し取り組みます。

4. 家族交流の促進

- (1)面会者の状況
(2)外泊の状況
(3)外出の状況

(1)面会者の状況

入居者への面会状況は、「表-16」の通りです。感染状況に応じて面会を制限させていただきました。

「表-16」

総面会者数	1日の平均面会者数
426人	1.1人

(2)外泊の状況

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、外泊された方はいらっしゃいませんでした。近年の状況としては、介護度の重度化により家族の負担が大きくなっており、外出に切り替えられる方がほとんどで、外泊は近年減少傾向にあります。

外泊 「表-17」

外泊	実人員	延件数	延日数
	0人	0件	0日

(3)外出状況

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、外出された方はいらっしゃいませんでした。

外出 「表-18」

延べ人数	外出先		
	自宅	通院	その他
0	0	0	0

5. ショートステイの状況

- (1)ショートステイの稼働率
(2)ショートステイ介護度別人数
(3)ショートステイ利用実績の比較

(1)ショートステイの稼働率

ショートステイの稼働率は、「表-19」の通りです。

「表-19」

	利用延べ人員	利用率
4月	308	85.6%
5月	281	75.5%
6月	322	89.4%
7月	312	83.9%
8月	303	81.5%
9月	315	87.5%
10月	275	73.9%
11月	250	69.4%
12月	214	57.5%
1月	212	57.0%
2月	204	60.7%
3月	196	52.7%
合計	3,195	72.95%

(2)ショートステイ介護度別人数

ショートステイの介護度別人数は、「表-20」の通りです。要介護度3の方が最も多く、全体の44%となっています。

「表-20」

介護度	人数	構成比
要支援1	0	0%
要支援2	1	2%
要介護1	7	15%
要介護2	11	23%
要介護3	21	44%
要介護4	2	4%
要介護5	6	12%
合計	48	100%

(3)ショートステイ利用実績の比較

直近3年間の実績比較は「表-21」の通りとなります。

ショートステイ利用実績の比較

「表-21」

	2020年度	2021年度	2022年度
定員数	12人	12人	12人
延べ人員	3061	3947	3192
1月当たりの利用者数	255	328	266
利用率	69.88%	90.11%	72.88%

6. 職員研修

- (1)外部研修実績
- (2)内部研修実績

(1)外部研修

令和4年度は新型コロナウイルス流行の為、外部研修の受講はありませんでした。

「表-22」

実施時期	研修内容	主催	参加人数
合計		0	0

(2)内部研修実績

月に1回、介護職員を中心とした勉強会を開催しました。内容は、リーダー、サブリーダーが中心となり、新人職員に向けた介助方法の説明や、介護現場の課題となっている事柄を取り上げました。

「表-23」

実施時期	研修内容	内容	参加人数
4月	防災関係について	・防災備蓄品について、停電時の照明について、自家発電について、災害に対しての心構え等を話し合う	15
5月	各係活動計画確認	・各係りの活動計画を確認・共有し全職員で取り組めるようにする	16
6月	感染対応と食中毒予防	・感染症対応の手順確認 ・食中毒予防について学ぶ	16
7月	身体拘束及び虐待防止	・スピーチロックや虐待について実際の現場を想定し学ぶ	8
8月	事故防止について	・事故、ヒヤリハットを振り返り、各職員が気を付けていることや意識していること、今後の対応策について	13
9月	感染対策について	・実際に感染対応をとったケースを元にガウンやN95マスクの装着について再確認する	15
10月	身体拘束及び虐待防止	・身体拘束や虐待について事例検討	11
11月	事故防止について	・8月勉強会で話し合った事故対策についての評価 ・事故発生時の対応について確認 ・課題と今後の対応策の確認	12
12月	感染症対策について	・感染対応手順について再確認 ・感染対応物品の取り扱いについて	13
1月	防災・避難について	新型コロナウイルス流行により中止	-
2月	ハラスメントについて	新型コロナウイルス流行により中止	-
3月	今年度の振り返り	新型コロナウイルス流行により中止	-
合計		9	119

7. 実習生の受け入れ

今年度は、実習生の受け入れはありませんでした。

8. 職員状況

- (1)職員配置状況
- (2)資格取得状況
- (3)入退職の状況

(1)職員配置状況

令和4年度職員配置状況 2022年3月31日現在「表-24」

区 分	常勤	非常勤	計(人)
施設長	0	0	1
総務	3	0	3
相談員	2	0	2
施設介護支援専門員	1	0	1
看護職員	3	0	3
介護職員	20	11	31
営繕・運転	0	2	2
清掃・洗濯等	0	4	4
居宅主任介護支援専門員	1	0	1
居宅介護支援専門員	2	0	2
計	33	17	50

(2)資格取得状況

2022年3月31日現在「表-25」

区 分	常 勤	非 常 勤	計(人)
社会福祉士	2		2
社会福祉主事任用資格	3	1	4
主任介護支援専門員	1		1
介護支援専門員	5	1	6
看護師	2		2
准看護師	2		2
介護福祉士	14	5	19
ヘルパー1級	1		1
ヘルパー2級	1	1	2

(3)入退職の状況

令和4年度職員入退職 「表-26」

	入 職	退 職	在 職 職 員 数
4月	介護支援専門員常勤1名	介護支援専門員常勤1名 介護員非常勤2名	54名
5月		介護員非常勤2名	52名
6月		清掃職員非常勤1名	51名
7月	介護員常勤2名		53名
8月	介護員常勤1名	介護員常勤1名	53名
9月	相談員常勤1名	相談員常勤2名	52名
10月	介護員非常勤1名		53名
11月	介護員常勤2名 看護非常勤1名	介護員常勤1名	55名
12月		介護員非常勤1名	54名
1月		施設長常勤1名 介護員常勤2名 相談員常勤1名	50名
2月	介護支援専門員常勤1名		51名
3月	介護員常勤1名	介護員常勤1名	51名
計	11名	16名	離職率 28.57%

(前年度離職率 9.25%)

5. 通所介護(通所介護型サービス)部門

【 目 標 】

- 利用者が可能な限り在宅において有する能力に応じ自立した日常生活が送れるよう、心身の機能の維持及び社会的孤立感の解消をおこないます。
- 1日平均20名の利用者数の確保と安定した実績を目標とします。

【 重点課題 】

1. 利用者それぞれの状況にあわせた在宅生活継続の為の介助や機能訓練を行います。
2. 利用者の満足度を追及することで長期に利用し充実感や楽しみを感じて頂けるようにします。
3. 利用者、家族のニーズを把握し、他事業所等と連携を密に取ることで柔軟な対応を行います。
4. 多様なニーズに対応できるよう職員の質の向上に取り組みます。
5. 感染症の予防およびまん延防止に取り組みます。

【 実践結果 】

1. 利用者の安定した在宅生活の継続と家族が安心して在宅介護が出来るよう支援して参りました。
利用者個々の残存能力や心身の状態、生活環境を把握することで、安定した在宅生活の継続へ活かせるようサービス提供に取り組みました。また、家族とは日々の利用状況や些細な状態の変化に関しても、こまめに情報提供していくことで信頼関係を築き、在宅介護に関する悩みや不安について理解、共有することで共に問題解決へ向け取り組み、在宅生活継続、介護負担軽減の一助となるよう支援してまいりました。
今後はより一層の個々への機能向上および機能訓練への取り組みについて重視されることから、新型コロナウイルス感染状況が落ち着いてきた段階にて地域リハビリ支援事業として亀田総合病院から派遣される理学療法士や作業療法士の受け入れを活用し、利用者個々の身体状況、家庭環境に応じたリハビリにも取り組みました。
2. 利用者にとって生きがいや充実した時間となるよう、デイサービス利用を楽しみに感じて頂けるようなサービス提供に取り組みました。
普段外出の機会が少ない方もサービスの利用を通し住み慣れた地域にて知人と顔を合わせ会話を楽しんで頂くことで地域と人との繋がりを感じて頂けるよう環境を整え、また利用者の気持ちを尊重し寄り添い声掛けなど行っていくことで孤独感、社会的孤立の解消、自分の居場所があると感じ利用して頂けるよう努めました。
コロナ禍において例年に比べ出来る行事も限られる中、密を避ける等の環境に配慮し実施しました。敬老会の余興としては、利用者のよく知る事業所職員以外に他部署職員等も参加し、対戦形式での競技にすることで、利用者、職員が一体となって観て楽しんで頂けるよう取り組みました。また、個別対応としては、創作活動や教材を使った脳トレ問題を活用し余暇活動の一環として行って頂くことやリハビリを兼ね、しめ縄やお飾り作り、畑仕事等、生活習慣や仕事歴、趣味などを取り入れ、今後も利用者個々がやりがいや主体性をもって取り組めるサービス提供を充実していけるよう工夫してまいります。

3. 利用者、家族の希望に応える柔軟なサービス内容の推進及びケアマネジャーと連携を密に取ることで目標稼働率を達成するよう取り組みました。

利用者の気持ちを尊重しつつ家族の希望にも寄り添っていけるよう、利用内容等により柔軟な対応を心掛けました。ケアマネジャーとは日頃から利用状況や家族の要望、自宅での状況等について連絡を密にとるよう心掛け信頼関係の構築に努めるようにしました。施設の新型コロナウイルスクラスター発生時には一旦受け入れを中止し利用者の身体や生活を維持、継続すべく、利用者、家族、ケアマネジャーやその他関係機関と協力するとともに施設状況の経過等、都度に連絡、報告をすることで、収束後の安全、安心な受け入れ再開に務めました。今後の感染症流行時の受け入れについても、施設の方針や利用者の体調変化など、迅速、丁寧な情報提供を心掛けてまいります。また、新規利用相談等についても、感染予防対応に配慮した上で契約、調査、診断書、カンファレンス等の準備を迅速に行い、相談から利用までの期間短縮に努めました。今後も関係機関については細かな情報提供と丁寧迅速な対応を心掛け、利用を希望される方にスムーズにストレス無くご利用いただけるよう取り組み、地域の皆様のお役に立てるデイサービスを目指します。

4. ご利用者やご家族、地域のニーズにお応えできるよう新しいサービスに取り組みました。

ご利用者やご家族、地域の声を受け、今年度も夕食弁当と買い物代行を引き続き行っております。両サービスともご好評をいただいております。今後も地域の皆様のニーズに耳を傾け、それにお応えすることで、地域に必要とされる事業所を目指してまいります。

5. ご利用前のご本人及び同居ご家族の体調確認等で感染症予防に取り組みました。

ご利用前の体調確認や、施設での感染防止策などで感染予防に努めました。長引く新型コロナウイルスへの対応と、感染状況に応じて変化する対応については、それぞれの事業所で異なる対応となることもあり、ご利用者・ご家族が混乱することのないよう、丁寧に説明させていただくことを心掛けてまいりました。今後も感染対策をとりつつもご利用者・ご家族に極力ご不便をお掛けすることがないよう対応策を検討し取り組んでまいります。

【 デイサービス実績 】

(1) 利用実績

デイサービス利用状況前年度比較

「表-27」

	延べ利用者数									1日平均利用者数		
	2021年度				2022年度				差	2021年	2022年	差
	要支援	要介護	その他	合計	要支援	要介護	その他	合計				
4月	25	376	0	401	10	82	0	92	-309	15.4	13.1	-2.3
5月	24	371	0	395	31	261	0	292	-103	15.2	14.6	-0.6
6月	30	326	0	356	49	346	0	395	39	13.7	15.2	1.5
7月	30	368	0	398	48	345	0	393	-5	14.7	15.1	0.4
8月	28	291	0	319	48	319	0	367	48	12.3	13.6	1.3
9月	24	324	0	348	42	299	0	341	-7	13.4	13.1	-0.3
10月	23	333	0	356	47	300	0	347	-9	13.7	13.4	-0.3
11月	27	362	0	389	50	321	0	371	-18	15.0	14.3	-0.7
12月	30	342	0	372	50	301	0	351	-21	13.8	13.0	-0.8
1月	32	319	0	351	45	222	0	267	-84	14.6	16.7	2.1
2月	31	329	0	360	38	211	0	249	-111	15.0	15.6	0.6
3月	46	387	0	433	46	256	0	302	-131	16.0	16.8	0.8
合計	350	4128	0	4478	504	3263	0	3767	-711	14.4	14.5	0.1

デイサービス休業日は日曜日、1/1～1/3

(2)行事

デイサービス年間行事

「表-28」

月	行事内容	参加人数
4月	花見(散策)	5名
7月	七夕	50名
8月	夏祭り	69名
9月	敬老会	55名
10月	運動会	44名
11月	焼き芋パーティー	41名
12月	お餅つき	26名
	お飾り作り	3名
	柚子湯	28名
1月	鏡開き	15名
	年賀状で新年のご挨拶	46名
2月	節分	21名
3月	春の桜飾り(壁掛け飾り創り)	40名
年間行事	畑仕事	5名
	誕生日カード作成	58名
	おやつ作り	75名

(3)ボランティア受け入れ

デイサービスボランティア受け入れ実績

「表-29」

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
話し相手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行事手伝い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介助補佐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 新型コロナウイルス流行の為ボランティア受け入れ中止。

6. 看護部門

【 目 標 】

- 利用者の皆様が健康的な生活を続けられるよう健康管理に取り組みます。
- 健康状態については適宜家族へ報告し、情報共有することで信頼関係の構築に取り組みます。

【 重点課題 】

1. 利用者の健康状態の変化を早期に把握し重症化しないよう対応にあたります。
2. 新型コロナウイルス等感染症について予防とまん延防止に取り組みます。
3. 利用者・家族の意向に沿った看取りとなるよう各部連携して取り組みます。
4. 固定概念にとらわれず、良い取り組みがあれば積極的に取り入れ質の向上に取り組みます。
5. 災害時避難者や緊急利用者の受け入れ施設として機能を果たします。
6. 新規入所に際し、利用者・家族の意向を踏まえ、各部が同じ方向を向き協力してサービス提供できるよう取り組みます。

【 実践結果 】

1. 利用者の健康状態について早期に把握する為に、各職種間での情報交換を行いました。
毎日の検温、食事摂取量、排泄物の性状、日常生活動作など、介護職員との情報共有、毎月の体重測定や、バイタルサイン測定。嘱託医との連携、数値で表せない変化をとらえ、むやみに、他科受診をさせないことで、利用者負担をかける事なく、又、重症化することなく各部署と連携し、取り組む事ができました。
2. 感染症予防と対応手順について職員へ周知徹底し予防に取り組みました。
毎月開催している感染症対策委員会にて、近隣の流行状況等の共有と、感染症対応のシミュレーションを含めた勉強会を部署ごとに実施してきました。新型コロナウイルスに関しては日々状況が変化する中、施設内では「感染しない」はもちろんですが「感染させない」に重点を置き、自分が無症状感染者だと考え、それでも他者にうつさない為にはどうすればよいかを意識して行動するよう呼びかけました。手洗い手指消毒の徹底、アルコール消毒液は常に持ち歩き都度消毒、マスク着用の徹底、マスクを外した際に会話をしないことの徹底、換気の徹底等どれも基本的な対応ではありますが、それが全職員に徹底されるよう呼び掛けてきました。また利用者に関しては、利用2週間前からの体調や同居ご家族の様子の確認、入居者に体調不良者が出た際の個室対応、嘱託医にも協力いただき、新規入所に際して抗原検査の実施等で対策をとってまいりました。新型コロナウイルス感染症は、2023年 5 月8日以降、5類移行になりますが、まだまだ予断を許さない状況が続きます。ワクチン接種やの定期的な実施等有効な対策に積極的に取り組み、感染予防に努めてまいります。
3. 利用者・家族の気持ちに寄り添い意向に沿った看取りとなるよう取り組みました。
今年度は20名の方を施設で看取らせていただきました。重度化、高齢化が進んでおり、例年に比べとても多い件数となりました。新型コロナウイルス流行の中、面会等ご家族との交流がとても厳しい状況ではありましたが、看取り期の方には一定の条件のもと感染対策を徹底しご面会いただけるよう取り組みました。看取りに関しては、それぞれに様々な考えや思いがあり、家族の中でも意向が異なることも度々です。今後も日頃から本人・家族の気持ちに寄り添い、できる限り意向に沿った看取りとなるよう丁寧に取り組んでまいります。

4. 研修については新型コロナウイルスの影響もありほとんど参加・実施できませんでした。
今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、外部研修への参加はせず、内部研修についてもほぼ実施されない状況でした。今後はWEB研修等を活用し、看取りや感染対策の研修に参加していくことを検討しています。
5. 災害時の避難者や緊急利用者の受け入れがスムーズに行えるよう準備しました。
今年度は災害時の避難者の受け入れや緊急利用はありませんでしたが、今後も対象となる方がみられた際にスムーズな対応がとれるよう準備してまいります。
6. ケアプランやカンファレンスを通じてご利用者・ご家族の意向を踏まえたサービス提供に努めました。
重度化・高齢化が進む中、かつ新型コロナウイルスの流行でご家族との交流機会が極端に少なくなっている中、ご利用者やご家族が入所後の生活に望まれることをスタッフがしっかりと共有しておくことが重要ととらえ、入所段階から意向の確認やその共有に努めてまいりました。ご利用者の心身の状況によってその気持ちに変化がみられることも多い為、場面場面で話し合いの場を設定できるよう心掛け、施設での生活がより充実したものとなるよう取り組みました。

7. 栄養部門

【 目 標 】

○おいしく、楽しみとなる食事の提供をします。

【 重点課題 】

1. 食事が楽しみになるよう配慮していきます。
2. 新型コロナウイルス感染対策を含め、職員の体調管理や衛生管理を強化し、安全な食事の提供を徹底します。
3. 委託業者や各部との連携を強化し、業務を確実に且つ効率的にすすめられるよう取り組みます。

【 実践結果 】

1. 嗜好調査データの活用や、季節感や盛り付けを意識し、より食欲が増すように工夫した食事の提供に取り組みました。
嗜好調査のデータや、食事量、残食量の確認、日々の食事やおやつの様子を観察で嗜好把握に取り組みました。利用者からも直接感想や要望をお伺いし、要望のあったものは献立に取り入れるなどしてより喜んで頂けるよう取り組みました。
盛り付けに関しては、一品一品丁寧に盛り付けることで、見栄えが良くなり、以前より多く好評な意見を頂けるようになりました。
また、行事の際は季節の食材や行事食材等を取り入れ、お品書きの作成やメッセージカードを添え雰囲気作りに取り組み、ご好評を頂きました。
2. 手順やマニュアルを守り、安全な食事提供に向けチェック体制を強化しました。
日々の衛生管理や食材の管理は、委託業者のチーフと協力しながら職員の意識向上に努め、安全な食事の提供に取り組みました。
新型コロナウイルス対策として、厨房職員の体調管理や手洗い手指消毒はもちろんのこと、納品・検品時の手順についても周知し感染防止に努めています。今後も新型コロナウイルスを含めた食中毒や他感染症にも充分注意し、感染防止対策と衛生管理を徹底して参ります。クラスターの際は感染対策をしっかり行い厨房関係の職員で感染者を出すことなく、感染状況に合わせた食事配膳の対応は各部と連携して、滞りなく食事提供を行うことができました。しかしながら、栄養量の不足に備えた特殊食品の整備が必要で、今後の課題となりました。
災害に対する備えに関しては、備蓄量の見直しや備蓄使用に関するマニュアルの整備等をすすめてきました。しかしながら、災害だけでなく、新型コロナウイルスのクラスターなどいろいろな事態に対応できるよう、備える必要があり、今後、厨房委託業者や他事業所との連携等も視野にいれ対策していく必要があります。
3. 声掛けを意識し、無駄を省くことでミスを減らし、より効率的に業務をすすめられるよう取り組みました。
委託業者との情報共有については、窓口をチーフとし、それ以外の場合は書面に残すことを徹底し、連絡漏れや情報の行き違いが無いよう取り組みました。
献立作成については、年間計画や行事の内容、利用者からの要望を共有しておくことで、作成や相談の時間を短縮することができました。
毎日の配膳に関しても声掛けを意識し、事前の段取り確認を行うことで、配膳遅れや配膳ミスはほとんどなくなりました。今後もこの状態を維持できるよう努めて参ります。
給食会議で出た意見を確実に反映及び改善できるよう、指摘のあった献立と同じ物を取扱う際は事前に指摘事項を共有し、職員全員が改善点を確認できるよう配膳時にメモを残すようにしました。

これにより、会議で同じ指摘が繰り返されることも少なくなり、一品一品の質も改善されました。

4. 施設の畑で収穫した野菜類の活用について

収穫した野菜類の活用については、感染対策に配慮し、デイサービスにて焼き芋を行うことができたが、その他の野菜類についての活用はできませんでした。

8. 総務部門

【 目 標 】

- 感染防止対策を徹底し、安心して過ごせる環境づくりに取り組みます。
- 業務シェアを確立させ、正確かつ効率的に業務に取り組みます。
- 災害時、非常時には他部署と連携しご利用者の安全を守ります。

【 重点課題 】

1. 施設を利用される方々に安心して過ごしていただけるよう、感染防止対策を徹底します。
2. 業務をシェアすることで、それぞれの仕事をチェック、フォローできるよう取り組みます。
3. 経費削減に取り組みます。
4. 災害時、非常時に迅速な対応ができるよう備品を整備します。

【 実践結果 】

1. 利用される方々が安心、安全に過ごせる施設作りに取り組みました。
施設を利用される方々に快活な挨拶と丁寧な態度を心掛け、利用しやすいよう明るい雰囲気づくりに取り組みました。また、気持ちよく過ごしていただけるよう敷地内の草刈り、花壇やプランターの花植えを実施するなど環境整備にも取り組みました。設備機器においては、定期点検で不具合を指摘された箇所の整備を速やかに実施し利用者が安全に過ごせるよう取り組んでまいりました。
2. 事務担当職員内で業務内容を共有し、クロスチェックを行い業務を正確にすすめました。
事務職員間で年間スケジュールを共有し、進捗状況を確認しながら提出物などに漏れが無いよう業務に取り組みました。優先順位を意識し業務にあたることで効率的に業務をすすめることができました。また、業務をシェアし適宜クロスチェックを行うことで正確に業務をすすめてまいりました。事務職員間で連携を密にし、他部署との業務が円滑に進められるよう取り組みました。
3. 水道光熱費や消耗品等について無駄を無くし経費削減に取り組みました。
水道光熱費は、毎月の推移を表にし事務所に貼り出し、職員に日々節約を意識付け経費削減につなげました。また、エアコンの適切な温度管理や照明の消し忘れがないかなど常に呼びかけ、電気代の削減に取り組みました。設備の保守メンテナンスについては、各設備毎に契約を見直すことで経費節減につなげました。
4. 日頃より災害時、非常時の状況を想定し、いざという時に機能できるよう準備しました。
避難訓練の際、小型発電機の始動訓練や、発電機の設置場所の確認をしました。防災訓練には積極的に参加をし、消火器の使い方なども教わり災害時に備えました。高い所からの落下物や避難経路に障害物が無いか点検を実施し地震に備えました。また、備蓄品はリストを作成し、定期的に点検を行いました。貴重品、備品の持ち出しリストも都度見直しを行なっています。
今年度は新型コロナウイルス感染でクラスターとなってしまい感染対策物品の確保が大変だったことを踏まえ、今後に備え通常時より多く備蓄しました。感染対策委員会等であがった感染対策品に関しても、適宜用意し、万が一に備えてまいりました。

9. 居宅介護支援事業所部門

【 目 標 】

○地域の方が住み慣れた場所で安心してその人らしく生活をする事が出来るよう、利用者の希望に沿えるケアプランを作成します。

【 重点課題 】

1. 関連機関と連携し、利用者が安心して在宅で生活出来るようなケアプラン作りを実施します。
2. 介護支援専門員としての資質向上を目指し、専門性のある対応が出来るよう研修に参加します。
3. 他部署と連携し、花の里が地域に貢献し地域に根ざした施設となるよう広報活動を行います。
4. 感染症及び災害発生時に於いては、支援が必要とされた利用者の生活支援を行います。

【 実践結果 】

1. 関係機関と連携し、利用者が安心して在宅で生活出来るケアプラン作りを実施しました。
近隣の市町村では新型コロナウイルスのクラスターも発生しており、新型コロナウイルス感染拡大防止対応は継続してまいりました。しかし、利用者の必要に応じ病院を訪問、訪問が出来ない際には関連機関と電話や FAX(地域連携シート)等での連携を行い、利用者が安心して在宅で生活出来るようケアプラン作りに取り組みました。
担当件数は要介護 838件/年、介護予防(総合事業含む) 347件/年のプランを作成し、要介護 1～2と3～5の比率は平均6:4となっており、軽度者の比率が多くなっております。令和5年3月には介護支援専門員が1名退職予定であり、他事業所に引継ぎを行ったため件数は減少していますが、2月には1名採用があり、今後は新規の相談に対応していく予定です。
2. 介護支援専門員としての資質向上を目指し、専門性のある対応が出来るよう努めました。
今年度はオンライン研修を主に、令和4年5月には「高齢者虐待防止研修」の受講を始め、令和4年6月には南房総市介護支援専門員連絡会主催の「介護支援専門員に必要な協議体の知識」「社会福祉協議会が行っている多様なサービスについて」「ケアマネ本来の業務を確認する」といった研修を受講し、日頃行っている業務を改めて見直す事で介護支援専門員の立ち位置を確認する事が出来ました。
令和5年1月には「ケアプランデータ連携システム」の研修に参加し、導入する事でのメリットやデメリットを学習する事が出来ました。
令和5年2月には、淑徳大学 結城康博氏の講演会及びシンポジウムに参加し、南房総市の今後の課題を考える機会となりました。
3. 他部署と連携し、花の里が地域に貢献し地域に根差した施設となるよう広報活動を行いました。
広報活動は実施出来ませんでしたが、施設内ではデイサービスのイベントの協力や参加をする事でデイサービスのスタッフ、また利用者とも交流を持つ事が出来ました。また入所者に対し、散髪時の立会い、誘導、予防接種時の協力等を行う事で、他部署とのつながりを持つ事が出来ました。
4. 自然災害(地震発生時)には、独居、高齢者世帯の安否確認を行いました。
幸い大きな災害もなかったため、地震発生時には担当している独居、高齢者世帯に安否確認の連絡を行いました。

10. 在宅介護支援事業部門

【 目 標 】

○地域の高齢者の皆様が自立した在宅生活が送れるよう、身近で安心して相談できる窓口として活動します。

【 重点課題 】

1. 行政や地域包括支援センターと連携し、高齢者の課題について対応します。
2. 地域の集まりに出向き、介護保険の説明や出前講座等で地域貢献していきます。
3. 台風、大雨等の自然災害時には、援助が必要な方の支援を行います。

【 実践結果 】

1. 行政や民生委員、地域包括支援センターなどと連携し、高齢者の生活に生じた課題(介護・虐待・成年後見等)について対応してまいりました。

後見人については基幹型包括と連携し、後見人の手続きから選任までのお手伝いをいただく事が出来ました。民生委員との直接的な交流は出来ませんでしたが、独居の方が入院等された際には、電話等で報告を行い、情報の共有に努めました。直接介護保険のサービスに繋がらない方もいらっしゃいましたが、その方には定期的な訪問や電話による相談等で経過を確認させていただきました。相談件数は、実人員が50件/年、延べ人数は218件/年となっています。

2. 地域の集まりに出向き、出前講座等での地域貢献に取り組みました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、出前講座等の実施は出来ませんでした。しかし令和4年8月に地区社協の防災に関する研修会に参加し、和田地区の方々とハイゼックス米の調理を行い、災害時の食事提供の方法を学びました。また、三角巾の使用方法を実際に行う事で被災の際の対応についての知識習得の良い機会となりました。

3. 自然災害時には、援助が必要な方の生活支援を行いました。

今年は台風や大雨の被害はありませんでしたが、地震等が発生した際には、電話等で安否確認をさせていただきました。

社会福祉法人 千葉育美会
浮間こひつじ園
令和4年度 事業報告書



特別養護老人ホーム 浮間こひつじ園

目次

令和4年度事業概要	84
1. 運営理念と基本方針	85
2. 組織図	86
3. 職員配置状況	87
(1) 職員配置状況	87
ユニット型	87
従来型	87
(2) 資格取得状況	87
ユニット型（複数所持含む、従来兼務者重複記載）	87
従来型（複数所持含む、ユニット兼務者重複記載）	88
(3) 入退職者状況	88
(4) 生きがい就労支援	88
4. ユニット型特別養護老人ホーム	89
(1) 入居者の状況	89
(2) 健康管理	92
5. 従来型特別養護老人ホーム	94
(1) 入居者の状況	94
(2) 健康管理	96
6. 行事食	98
7. 職員研修	99

令和4年度事業概要

令和4年度においては、当施設及び当法人のみならず、介護業界全体、また世間の皆様に対して多大なるご迷惑をおかけする、決してあってはならない事件を起こしてしまいました。お亡くなりになりましたご本人様とご遺族様には心よりお悔やみ申し上げると共に、入居されている皆様とご家族の皆様、関係者の皆様には深くお詫び申し上げます。施設及び法人として、2度とこのような事が起きないように、再発防止策を講じるとともに、施設の管理体制をはじめとした組織全体の見直しと改善を図り、安心してサービスを受けていただくよう信頼の回復を1つずつ丁寧に取り組んでいく所存です。

当園としては、前年度に施設長人事による、体制変更を行ない、ショートスティオープンを目指し、稼働率の改善と職員確保に取り組んでおりました。前期においては、稼働率は前年以上となり、多くの派遣職員から直接雇用とすることで、改善に取り組んでおりました。しかしながら事件後に、施設長の退職をはじめ、再発防止を目的とした第三者委員会の設置、第三者委員の指摘事項に沿った改善計画を策定している間、区の入居調整が不可となり、退所される方はいるものの、新たな入所に繋げることができませんでした。稼働率は従来型、前年度対比 18.77%増の 82.7%、ユニット型については、前年度対比 1.68%増の 89.22%となりました。

前期の稼働率の改善は、職員不足の中、教育体制や指導が不十分で、未経験職員や多くの外国人職員の採用での改善でありました。施設の管理及び組織体制、システムが十分に機能しておらず、抜本的な見直しが必要となります。すでに着手している事も多くありますが、年度末3月に行った実地指導での指摘事項をはじめ、組織の再構築が急務であります。その為には、単独施設のみならず、法人内連携で、指針やマニュアルの法人内統一化、相互交流を行ない、組織をオープンにすること、基本的な職員が行うことなどを明確化する必要があります。体制を整えつつ、再発防止策を徹底して入居再開を目指し、経営の安定化を着実にしてまいります。

また、現場職員のコミュニケーションの活性化も重要であります。これまで希薄であった職員の意見を吸い上げたり、議論を交わす会議やシステムを見直し、上席者や他部門の職員、同業種の法人内でのコミュニケーションの場が必要であります。さらに今後も活躍する外国人人材の方にも、介護業務はもとより、日本語教育も重要なポイントであると考えます。OJT のみならず、外部など様々な方法で支援をしたいと思っております。

最後に、社会福祉法人として地域との関りにも再度見直しをしたいと考えます。地域との顔の見える関係を目指し、地域貢献をすべく、地域により深くかかわる必要性を感じます。信頼関係を築くことは長い時間を要することですが、丁寧に積み上げていき、地域に必要な施設となるよう職員一同、一体感を持って取り組んでまいります。

1. 運営理念と基本方針

運営理念

「当たり前生活を提供することで暮らしの継続を支えます」

運営方針

「ご入居者、ご家族とのつながりを大切に思い、喜怒哀楽をともにいたします」

「地域との関わりを大切に開かれた運営を行います」

「常に考えることができるプロの職員を育成します」

基本方針（重点目標）

「ユニットケア、グループケアの意識統一を図ります」

多職種協働の組織形成を行い、ご入居者の生活を支えるための手段を確立します。

「サロン、地域行事等を利用し、地域との交流を図ります」

浮間こひつじ園の周知とともに地域交流スペースの利用促進を進めることにより、社会福祉法人としての役割を担います。

「小集団活動を通じ、職員個々に役割と責任の意識を養います」

組織の役割や委員会、会議等を通じ職員自らが業務を組み立てる感性を育てます。

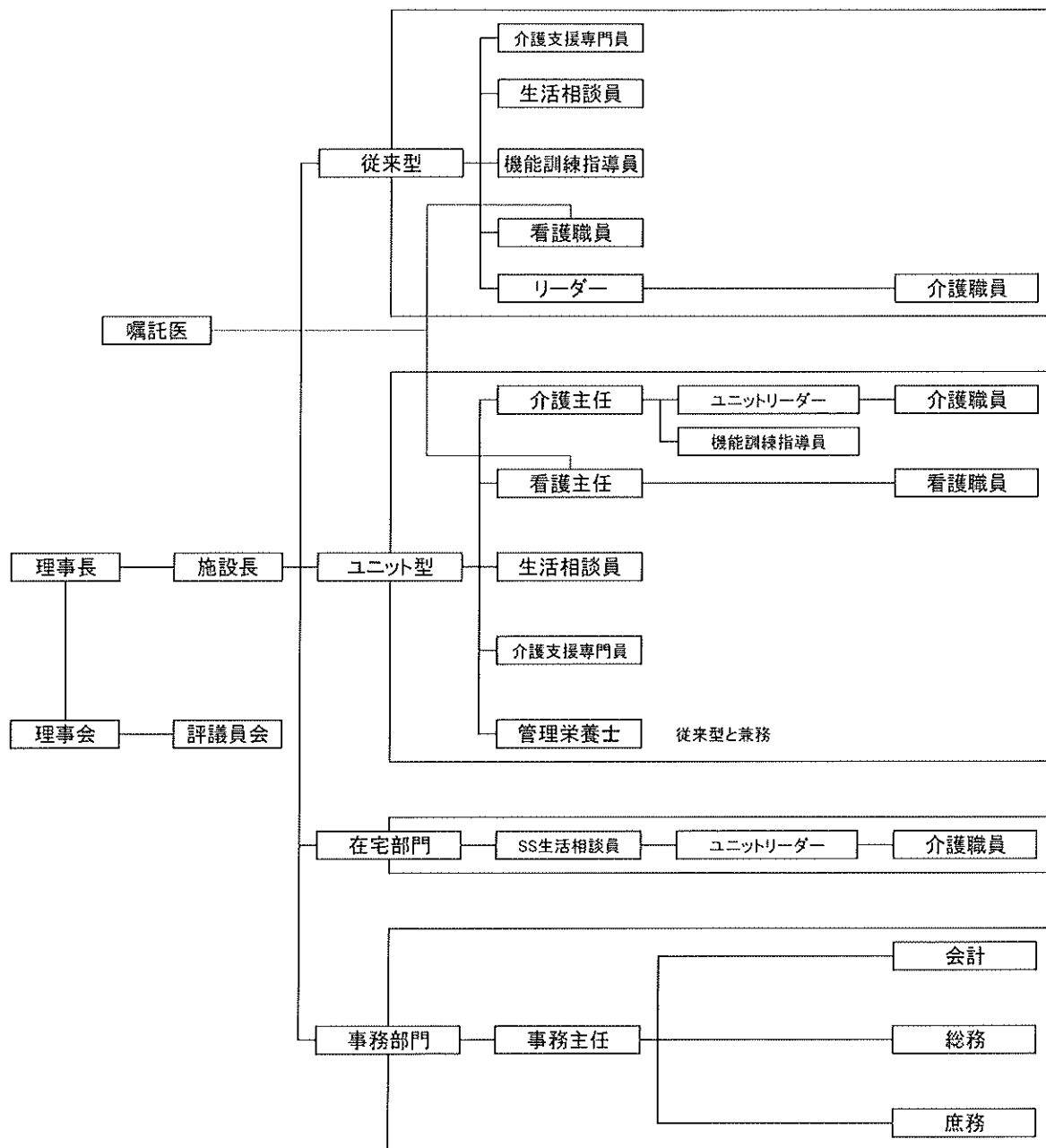
特別養護老人ホームにご入居することで、ご自宅ではできなかったことができるようになることはたくさんあります。しかし、ご自宅ですべてできていたことができなくなることもあります。自宅での「当たり前生活を提供すること」は浮間こひつじ園で暮らしの継続を支え、ユニットケアの理念に則すると考え、この理念を立てました。

我々職員はご入居者とご家族を繋ぐ架け橋だと考えます。仲を取り持つと言えば大袈裟ですが、ご入居者の感情を大切にご家族との思いを繋げていきたいと考えました。

そのためには各職員は自身の仕事に責任とプライドを持ち、かつ謙虚に業務に当たらなければなりません。人間性が強くでる仕事だけにプロとしての自覚が求められると考えます。

【 組織人としての意識 】、【 役割と責任 】を一人一人の職員が持てるように指導していきたいと考えます。

2. 組織図



3. 職員配置状況

(1) 職員配置状況

ユニット型

区 分	常 勤	非 常 勤	派 遣	計
施設長（従来兼務）	1	0	0	1
生活相談員（介護支援専門員兼務）	1	0	0	1
介護支援専門員（常勤は相談員兼務）	1	0	0	1
介護職員	17	15	5	37
看護職員	1	1	1	3
機能訓練指導員（従来兼務）	1	0	0	1
栄養士（従来兼務）	1	0	0	1
事務員（従来兼務）	2	1	0	3
嘱託医（従来兼務）	0	1	0	1
シニアスタッフ	0	7	0	7

令和5年3月31日現在

従来型

区 分	常 勤	非 常 勤	派 遣	計
施設長（従来兼務）	1	0	0	1
生活相談員（介護支援専門員兼務）	1	0	0	1
介護支援専門員（相談員兼務）	1	0	0	1
介護職員	6	3	2	11
看護職員	0	1	0	1
機能訓練指導員（従来兼務）	1	0	0	1
栄養士（従来兼務）	1	0	0	1
事務員（従来兼務）	2	1	0	3
嘱託医（従来兼務）	0	1	0	1
シニアスタッフ	0	1	0	1

令和5年3月31日現在

(2) 資格取得状況

ユニット型（複数所持含む、従来兼務者重複記載）

区 分	常 勤	非 常 勤	派 遣	計
介護福祉士	5	6	2	13
実務者研修	3	0	1	4
初任者研修	1	2	0	3
看護師	1	0	1	2
准看護師	0	3	0	3
社会福祉士	0	0	0	0
社会福祉主事任用資格	0	0	0	0
介護支援専門員	2	0	0	2
柔道整復師	1	0	0	1
管理栄養士	1	0	0	1

令和5年3月31日現在

従来型（複数所持含む、ユニット兼務者重複記載）

区 分	常 勤	非 常 勤	派 遣	計
介護福祉士	0	2	1	3
実務者研修	0	1	0	1
初任者研修	3	1	0	4
看護師	0	1	0	1
准看護師	1	0	0	1
社会福祉士	0	0	0	0
社会福祉主事任用資格	0	0	0	0
介護支援専門員	1	0	0	1
柔道整復師	1	0	0	1
管理栄養士	1	0	0	1

令和5年3月31日現在

（3）入退職者状況

	入職	退職	合計	在職職員数 (4/1 職員 60)
4月	4名	2名	6名	62
5月	3名	2名	5名	63
6月	4名	2名	6名	65
7月	3名	2名	5名	66
8月	7名	5名	12名	68
9月	5名	6名	11名	67
10月	1名	2名	3名	66
11月	0名	3名	3名	63
12月	1名	3名	4名	61
1月	1名	3名	4名	59
2月	1名	0名	1名	60
3月	2名	1名	3名	61
合計	32名	31名		離職率 51.2%

（4）生きがい就労支援

近所の住民の方にも浮間こひつじ園を知っていただくため、ユニット内での調理補助や清掃、リネン交換を近隣の高齢者等の方に短時間でも仕事として従事してもらっています。

介護職員が行わなくても、日常、家庭で行われていることやこれまで長年職業として従事していた方々に行ってもらっています。そのことにより介護職員の負担も減り、より効率的な動きが取れるようになっていきます。

現在、浮間こひつじ園では「調理補助＋リネン交換、清掃として7名」「営繕・ドライバーとして1名」の方が従事しています。

年齢・性別分布

年齢層	男性	女性	合計
65歳未満	0名	0名	0名
65歳～70歳	0名	2名	2名
71歳～75歳	1名	1名	2名
76歳～80歳	0名	4名	4名
合計	1名	7名	8名

4. ユニット型特別養護老人ホーム

(1) 入居者の状況

①年齢・性別状況

	男性	女性	合計	構成比
60歳未満	0名	0名	0名	0%
60歳～64歳	0名	0名	0名	0%
65歳～69歳	1名	0名	1名	1%
70歳～74歳	1名	1名	2名	0%
75歳～79歳	1名	1名	2名	4%
80歳～84歳	0名	4名	4名	5%
85歳～89歳	1名	13名	14名	38%
90歳～94歳	0名	20名	20名	34%
95歳～99歳	2名	6名	8名	10%
100歳以上	1名	4名	5名	4%
合計	7名	49名	56名	≒100%
平均年齢	85.65歳	90.71歳	90.09歳	

②要介護度の状態区分

介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護1	0名	1名	1名	0%
要介護2	0名	5名	5名	1%
要介護3	4名	11名	15名	36.6%
要介護4	1名	14名	15名	36.6%
要介護5	2名	18名	20名	27.5%
合計	7名	49名	56名	≒100%
平均要介護度	3.7	3.9	3.9	

③負担限度額取得済者数

	1段階	2段階	3段階	4段階	合計
人数	0名	4名	22名	25名	51名
構成比	0	7.8%	23.1%	43.1%	≒100%

④在籍期間

在籍期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	0名	5名	5名	9.6%
1年以上2年未満	1名	9名	10名	19.6%
2年以上3年未満	0名	8名	8名	15.3%
3年以上	6名	23名	29名	55.7%
合計	7名	45名	52名	≒100%

⑤月別人数・入居稼働率

	入所者実数	入所者延日数	稼働率
4月	64名	1901日	90.5%
5月	66名	1978日	91.2%
6月	67名	1989日	94.7%
7月	67名	2076日	95.7%
8月	68名	2099日	96.7%
9月	67名	1980日	94.3%
10月	65名	1992日	91.8%
11月	64名	1911日	91.0%
12月	63名	1926日	88.8%
1月	61名	1860日	85.7%
2月	57名	1565日	79.8%
3月	55名	1705日	78.6%
平均	63.6名	1915.1日	89.9%

⑥入退居者の状況

入退居内訳	入居 実人員	入居内訳		退居 実人員	退居内訳			
		施設 病院	在宅		在宅	長期 入院	病院 逝去	看取り
4月	0名	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名
5月	3名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
6月	1名	1名	0名	1名	0名	1名	0名	0名
7月	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
8月	1名	1名	0名	1名	0名	0名	1名	0名
9月	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名
10月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
11月	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名
12月	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名
1月	0名	0名	0名	4名	0名	0名	4名	0名
2月	0名	0名	0名	2名	0名	2名	0名	0名
3月	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名
合計	6名	6名	0名	15名	0名	5名	5名	5名

⑦入居調整

	名簿問合せ	アセスメント	入居判定可	入居判定不可	実入居
4月	23件	3件	4件	10件	0名
5月	8件	2件	2件	5件	3名
6月	8件	2件	1件	0件	1名
7月	0件	0件	0件	0件	1名
8月	0件	0件	0件	0件	1名
9月	0件	0件	0件	0件	0名
10月	0件	0件	0件	0件	0名
11月	0件	0件	0件	0件	0名
12月	0件	0件	0件	0件	0名
1月	0件	0件	0件	0件	0名
2月	0件	0件	0件	0件	0名
3月	0件	0件	0件	0件	0名
合計	39件	7件	7件	15件	6名

⑧食事状況

全介助	一部介助	見守り	自立	計
10名	7名	17名	19名	53名

⑨食事形態状況

主食		副食	
形態	人数	形態	人数
常食	15名	常食	9名
全粥	23名	一口大	17名
軟飯	10名	ソフト	23名
ミキサー	5名	ミキサー	4名
経管栄養	2名		名
合計	55名	合計	53名

⑩入浴状況

全介助	一部介助	自立	計	個浴	リフト	機械浴
33名	20名	4名	57名	0名	36名	21名

⑪移動状況

車椅子	リクライニング 車椅子	ティルト式 車椅子	歩行器・杖	合計
38名	1名	3名	15名	57名

(2) 健康管理

①医療機関への通院状況

受診病院と受診理由

浮間舟渡病院	2件
健康長寿医療センター	10件
北医療センター	35件
明理会中央総合病院	5件
帝京大学付属病院	5件
その他	93件
合計	150件

定期受診	53件
発熱	3件
整形外科	13件
皮膚科	25件
内科	12件
その他	44件
合計	150件

月別受診件数

4月	10件
5月	8件
6月	16件
7月	20件
8月	16件
9月	15件
10月	16件
11月	13件
12月	12件
1月	12件
2月	14件
3月	13件
合計	165件

②病院別・入院状況

	人数	延べ日数
板橋中央総合病院	1名	23日
浮間舟渡病院	1名	99日
北医療センター	4名	85日
健康長寿医療センター	2名	70日
明理会中央総合病院	1名	16日
浮間中央病院	2名	44日
帝京大学医学部付属病院	1名	44日
赤羽中央病院	1名	8日
高島平中央総合病院	1名	26日
都立大塚病院	1名	1日
金子病院	1名	10日
花と森の東京病院	1名	10日
深川立川病院	1名	10日
綾瀬循環器病院	1名	20日

③医療行為一覧

胃瘻	褥瘡処置	点滴	酸素療法	吸引
2名	0名	0名	0名	0名
尿道留置カテーテル	インスリン注射	血糖測定	ウロストミー	人工肛門
2名	0名	0名	0名	0名

④看取り介護の状況報告

	性別	年齢	主な既往	看取り開始日	看取り終了日	看取り日数
1	女性	91歳	アルツハイマー型認知症	R3.11.2	R4.9.11	313日
2	女性	90歳	アルツハイマー型認知症	R4.10.6	R4.10.8	3日
3	女性	93歳	認知症 慢性腰痛症	R4.8.9	R4.12.17	130日
4	女性	90歳	アルツハイマー型認知症	R4.8.29	R4.9.19	21日

⑤施設内事故状況

事故件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	-
事故件数	8件	18件	7件	21件	15件	18件	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故件数	12件	14件	16件	13件	21件	20件	183件

分類

転倒転落	外傷	薬関係	離設	異食	その他	合計
53件	75件	32件	0件	5件	18件	183件

行政報告

転倒転落	外傷	薬関係	離設	異食	その他	合計
2件	0件	0件	0件	0件	0件	2件

5. 従来型特別養護老人ホーム

(1) 入居者の状況

①年齢・性別状況

	男性	女性	合計	構成比
60歳未満	0名	0名	0名	0%
60歳～64歳	0名	0名	0名	0%
65歳～69歳	0名	0名	0名	0%
70歳～74歳	1名	0名	1名	3.8%
75歳～79歳	0名	0名	0名	0%
80歳～84歳	3名	1名	4名	16.6%
85歳～89歳	0名	9名	9名	37.5%
90歳～94歳	4名	2名	6名	25%
95歳～99歳	0名	4名	4名	16.6%
100歳以上	0名	0名	0名	0%
合計	8名	16名	24名	≒100%
平均年齢	84.49	90.12	88.41歳	

②要介護度の状態区分

介護度	男性	女性	合計	構成比
要介護1	0名	0名	0名	0%
要介護2	0名	1名	1名	4.1%
要介護3	2名	9名	11名	45.8%
要介護4	6名	2名	8名	33.3%
要介護5	0名	4名	4名	16.6%
合計	8名	16名	24名	≒100%
平均要介護度	3.8	3.5	3.6	

③負担限度額状況

1段階	2段階	3段階	4段階	合計
0名	4名	12名	9名	24名
0%	16.6%	50%	34.5%	構成比

④在籍期間

在籍期間	男性	女性	合計	構成比
1年未満	2名	2名	4名	18.1%
1年以上2年未満	0名	2名	2名	9.1%
2年以上3年未満	2名	4名	6名	27.2%
3年以上	3名	7名	10名	45.4%
合計	7名	15名	22名	≒100%

⑤月別人数・入所稼働率

	入所者実数	入所者延日数	稼働率
4月	24名	686日	76.2%
5月	25名	713日	76.7%
6月	25名	748日	83.1%
7月	28名	740日	90.3%
8月	28名	868日	93.3%
9月	28名	797日	88.6%
10月	26名	788日	84.7%
11月	25名	721日	80.1%
12月	24名	744日	80.0%
1月	24名	744日	80.0%
2月	24名	672日	80.0%
3月	24名	744日	80.0%
平均	20名	755.4日	82.7%

⑥入退居者の状況

入退居の内訳	入居 実人員	入居内訳		退居 実人員	退居内訳		
		施設 病院	在宅		長期 入院	病院 逝去	看取り
4月	1名	1名	0名	1名	1名	0名	0名
5月	2名	1名	1名	1名	0名	1名	0名
6月	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
7月	3名	1名	2名	0名	0名	0名	0名
8月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
9月	0名	0名	0名	2名	0名	2名	0名
10月	0名	0名	0名	1名	0名	0名	1名
11月	0名	0名	0名	1名	0名	0名	1名
12月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
1月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
2月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
3月	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	7名	4名	3名	6名	1名	3名	2名

⑦入所調整

	名簿問合せ	アセスメント	入居判定可	入居判定不可	実入居
4月	7件	2件	2件	5件	1名
5月	17件	3件	3件	8件	2名
6月	0件	0件	0件	0件	1名
7月	0件	0件	0件	0件	2名
8月	0件	0件	0件	0件	0名
9月	0件	0件	0件	0件	0名
10月	0件	0件	0件	0件	0名
11月	0件	0件	0件	0件	0名
12月	0件	0件	0件	0件	0名
1月	0件	0件	0件	0件	0名
2月	0件	0件	0件	0件	0名
3月	0件	0件	0件	0件	0件
合計	24件	5件	5件	13件	6名

⑧食事介助状況

全介助	一部介助	見守り	自立	計
1名	5名	5名	13名	24名

⑨食事形態状況

主食		副食	
形態	人数	形態	人数
常食	8名	常食	7名
全粥	5名	一口大	7名
軟飯	9名	ソフト	7名
ミキサー	2名	ミキサー	3名
経管栄養	0名		名
合計	24名	合計	24名

⑩入浴状況

全介助	一部介助	自立	計	個浴	リフト	機械浴
5名	12名	3名	20名	8名	9名	3名

⑪移動状況

車椅子	リクライニング車椅子	ティルト式車椅子	歩行器・杖	合計
10名	0名	1名	9名	20名

(2) 健康管理

①医療機関への通院状況

浮間舟渡病院	0件	定期受診	0件
健康長寿医療センター	0件	発熱	0件
北医療センター	0件	整形外科	5件
明理会中央総合病院	0件	皮膚科	3件
帝京大学付属病院	0件	内科	2件
その他	11件	その他	1件
合計	11件	合計	11件

月別受診件数

4月	0件
5月	0件
6月	1件
7月	0件
8月	0件
9月	1件
10月	2件
11月	1件
12月	0件
1月	0件
2月	2件
3月	4件
合計	11件

②病院別・入院状況

	人数	延べ日数
佐藤病院	0名	0日
浮間舟渡病院	0名	0日
北医療センター	0名	0日
健康長寿医療センター	0名	0日
王子生協病院	1名	59日
板橋中央総合病院	1名	13日
明理会中央総合病院	1名	14日
赤羽中央病院	0名	0日
高島平中央総合病院	0名	0日
合計	3名	86日

③医療行為一覧

胃瘻	褥瘡処置	点滴	酸素療法	吸引
0名	0名	0名	0名	0名
尿道留置カテーテル	インスリン注射	血糖測定	ウロストミー	人工肛門
0名	0名	0名	0名	0名

③ 看取り介護の状況報告

	性別	年齢	主な既往	看取り開始日	看取り終了日	看取り日数
1	女性	88歳	パーキンソン症候群	R4.9.19	R4.10.13	25日

⑤施設内事故状況

事故件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	-
事故件数	9件	8件	4件	4件	3件	10件	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故件数	7件	6件	1件	1件	4件	4件	61件

分類

転倒転落	外傷	薬関係	離設	異食	その他	合計
7件	43件	4件	1件	3件	3件	61件

行政報告

転倒転落	外傷	薬関係	離設	異食	その他	合計
0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

6. 行事食

行事の食事はご入居様が目で見て楽しんでもらえるよう委託業者と協力して提供しております。行事食の日に合わせ、行事にちなんだランチョンマットを用意しています。



処暑のお食事



敬老祝い膳



クリスマス



正月祝い膳



ひな祭り膳

7. 職員研修

慢性的に人員が足りず、ほぼ研修の実施ができませんでした。また、コロナ禍ということもあり、在宅研修という形で介護技術の基本の研修を行いました。9月以降は人員が足りないながらも高齢者虐待研修を2度行い、虐待防止に向け働きかけることができました。

(1) 内部・外部研修実績

4月			
5月			
6月			
7月			
8月	介護技術の基本		介護報酬請求事務に関する研修会（基礎編、オンライン配信）
9月	高齢者虐待防止 （レポート提出のみ）		栄養ケア・マネジメント研修（オンライン配信）
10月			
11月	高齢者虐待防止 （波岡スタッフ講師）		
12月			
1月			介護報酬請求事務に関する研修会（応用編、オンライン配信）
2月	アンガーマネジメント （外部研修）		
3月			

社会福祉法人 千葉育美会
令和4年度 事業報告書
編集：千葉育美会 本部
令和5年6月10日発行